

平成26年度

長崎大学病院
メディカル・ワーカーライフバランスセンター

あじさいプロジェクト
活動報告書





仕事と生活の両立を図りながら活躍するドクターを応援します！

キャリアサポート

自分らしく、キャリアを継続するために



- ・コンサルティング
- ・復職＆リフレッシュトレーニング
- ・講演会やセミナーなどの開催報告
- ・女性医師ネットワークづくり

両立サポート

育児、介護…ライフイベントを迎えて、安心して働くために



- ・長崎県医師会保育サポートシステム
- ・イブニングシッターサービス
- ・マタニティ白衣貸出
- ・両立ガイドブック
- ・子育て家庭に役立つ情報
- ・国の支援制度紹介

長崎県内病院の取り組み

ワークライフバランス実現を目指しています！



- ・長崎大学病院の取り組み
- ・長崎大学病院各診療科メッセージ
- ・病院インタビュー
- ・地域就労支援病院
- ・私たちのワークライフバランス実践術

長崎大学病院は長崎県の委託をうけて、メディカル・ワークライフバランスセンターを設置し、長崎県内の医師が「働きやすさ」と「働きがい」を感じて医療に取り組める環境設備を常に考えています。センターが推進するのがあじさいプロジェクトです。

あじさいプロジェクトの活動は、ワークライフバランスの理念に基づいています。ワークライフバランスとは、充実したライフを得るために、ほどほどに働くという考えではなく、ワークとライフの相乗効果を狙ったものです。つまり、ライフで得られたスキル（例えば患者さんやコメディカルとの意思疎通をよくするコミュニケーションスキル）をワークに生かし、仕事の効率を上げて長時間労働を改善します。女性医師には「仕事と育児の両立」を図り、多様な就労形態で、子どもの成長に応じて徐々にステップアップできる仕組みづくりと、育児や介護等で時間制約のある女性および男性医師が、気兼ねすることなく働く「お互いさま」の風土づくりで、キャリア継続できることを目指しています。

目 次

はじめに	- - - - -	1
応援メッセージ	- - - - -	2~3

1.プロジェクトの概要と目的

①あじさいプロジェクトとは	- - - - -	4
②メディカル・ワークライフバランスセンターについて	- - - - -	4
③あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関	- - - - -	5
④あじさいプロジェクト ホームページからの発信	- - - - -	6
⑤病院インターネットからの発信	- - - - -	6
⑥Facebookからの発信	- - - - -	7
⑦あじさいプロジェクト通信(メールマガジン)からの発信	- - - - -	8

2.両立支援活動

①キャリアサポート

1)キャリアコンサルティング	- - - - -	9
2)復職&リフレッシュトレーニング(全5回)	- - - - -	10~14
3)イキイキ働く女性医師のための美と健康セミナー(全3回)	- - - - -	15~17
4)学生キャリア講習会	- - - - -	18~19
5)ワークライフバランスに関するセミナー	- - - - -	20~21
6)平成26年度女性医師の勤労環境の整備に関する講習会	- - - - -	22
7)医学生・研修医をサポートするための会	- - - - -	23
8)女性医師ネットワークづくり	- - - - -	24~25

②両立サポート

1)保育サポートシステム	- - - - -	26~29
2)イブニングシッター	- - - - -	30~32
3)マタニティー白衣貸し出し	- - - - -	33
4)出産・育児のイロハ	- - - - -	33
5)働くあなたのための介護準備のABC	- - - - -	33

③長崎県内病院の取り組み

【長崎大学病院の取り組み】

1)診療科長・中央診療部門長および医局 訪問	- - - - -	34~35
2)ワークライフバランス推進員	- - - - -	36~37
3)あじさい保育園	- - - - -	38
4)ホスピレート	- - - - -	39
5)男女イキイキ企業表彰	- - - - -	39~40

【地域病院の取り組み】

6)病院インタビュー		
第1回 市立大村市民病院	- - - - -	41
第2回 長崎労災病院	- - - - -	42
第3回 済生会長崎病院	- - - - -	43
7)地域就労支援病院	- - - - -	44~45
8)私たちのワークライフバランス実践術	- - - - -	46~47

3.調査・研究

①平成26年度医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート	48
②平成26年度医師のワークライフバランスに関するアンケート調査	49~52
③女性医師の近隣病児保育施設の利用調査(長崎大学病院)	53
④潜在女性医師の把握事業	54
⑤燃え尽き症候群克服のためのワークライフバランスからのアクションリサーチ	55

4.広報活動

①講演	56
②メディア掲載・出演	57~59

5.委員会・ワーキンググループ活動

①センター運営委員会	60
②病児保育検討ワーキンググループ	61
③ホームページ運営委員会	61
④平成26年度あじさいプロジェクト活動報告会	62

6.その他

①参加・受講	63
②見学来訪	64
③関連機関所属一覧	64
病院インセンティブ	65

7.謝辞

66

はじめに

◆ごあいさつ



長崎大学病院
メディカル・ワークライフバランスセンター
センター長 伊東 昌子

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターが設立されて、3年になろうとしています。男女の分け隔てなく、ともに活躍できる環境を整備していくことが「あじさいプロジェクト」が目指している姿であり、当センターは、「あじさいプロジェクト」の拠点としての役割を担ってきました。設立当初から、「女性医師のためのセンター」という印象を持たれ続けていますが、女性医師就労支援を皮切りと位置付け、医療全体の働き方を見直していくための足掛かりとしています。おかげさまで、「ワークライフバランス」という言葉は職員にも認知度が上がってきているようですし、一歩ずつではありますが、多様なキャリアサポートや両立支援が整ってきました。

今年度に新たにスタートした事業として、長崎県医師会と協働する「長崎県医師会保育サポートシステム」があります。これは、男女にかかわらず子育て中の医師(利用者)と保育センターを事前にマッチングしておき、利用者からの緊急時対応や日常的なお預かりの依頼に対して、センターが援助します。きめ細やかな対応をするためにコーディネーター2名で対応していますが、来年度は長崎大学病院だけでなく、子育て中の医師が多く活躍している長崎市内の病院にも広めていきたいと考えています。また、夕方から夜間の託児サービス「イブニングシッター」は、長崎大学病院内で開催される研修会やカンファレンスに参加できるよう、病院職員なら誰でも利用できるようにしました。

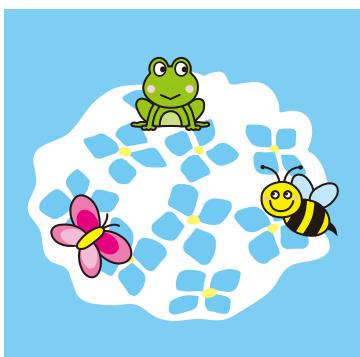
昨年度から行っている、長崎大学卒業の女性医師と長崎県内に勤務する女性医師を対象にした現況調査は、今年度で終了の見込みとなりました。調査に回答した半数以上の女性医師が、メールアドレスを登録してくださり、メールマガジン「あじさいプロジェクト通信」を通じてネットワークが広がっています。

新たなキャリア形成支援事業として、医学部3年生を対象に、朝から夕方までの講義を行い、グループワークや先輩医師との交流を通じてキャリアを考える機会を設けました。講義に手応えを感じましたので、今後も継続していきたいと思っています。

年々新しい施策を手がけてきましたが、活動には限りがありません。

今後も、みなさまのご理解、ご協力に支えられながら、センタースタッフ総力を挙げ、目標に向かって進んでいきたいと考えております。どうぞ引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

◆あじさいプロジェクトのロゴ



あじさいは、花弁状のがく片を4、5枚もつ小さな花が集まって咲き、大きなあじさいを作ります。ヒトが集まって、つながりあって社会ができるイメージから、あじさいプロジェクトと命名しました。
あじさいは長崎市の花でもあります。

あじさいプロジェクトのロゴには、カエル(働き方を**カエル**、働き方を考**ガエル**)、ミツバチ(I will BE(E))となりたい医師のイメージをもち、そして蝶のように大空へ舞っていただきたいという思いでつくりました。

応援メッセージ



国立大学法人 長崎大学
学長 片峰 茂

長崎大学文教キャンパスに新しいシンボルが誕生した。教養教育棟と教育学部棟の間の広場に立つ“風の中で”と題する青銅像である。風の中で、顔を上げ両手を拡げ、前に向かって歩もうとする乙女の姿が表現されている。男女共同参画をとりわけ意識したわけではないが、結果として、50年以上にわたって正門に佇み続ける男性の“若人の像”と、格好のバランスとなった。

製作者の佐藤敬助教授によると、このようなモニュメントは、様々な人々との無言の会話を通して、長い年月をかけ、その空間に調和しシンボルとして定着していくのだそうである。これから、“風の中で”は、時を超えて多くの学生、とりわけ女子学生たちに、様々な言葉を語りかけることになる。そして、彼女らが夢や志を育むための縁(よすが)として、キャンパスに定着してほしいものである。

これからの日本社会の持続可能性が、女性の進出と活躍にかかっていることは間違いない。これまでの、男を立てる奥ゆかしさと謙譲の美德で表現される古典的女性像を脱け出し、最先端で輝くことのできる女性人材をいかに多く育てることができるか。大学に課せられた最大のミッションの一つである。さまざまな逆風をしながら乗り越え、前に進みつづける、たくましく、そして美しく輝く女性職業人たちこそが、地域の創生やこの国の未来創造の力ぎを握っている。

あじさいプロジェクトへの期待はきわめて大きい。



長崎大学病院
病院長 増崎 英明

人にとって仕事と生活は人生の大きな部分を占めています。少子高齢化と経済の低迷、また東日本大震災など未曾有の危機に対して、私たちは前を向いてしっかりと協力し合い前進して行かなくてはなりません。そこには将来を託す子供を育て、また頼れる社会を築くためにも高齢者を支援するためにワークライフバランス、すなわち仕事と生活の調和を目指すシステム作りが不可欠です。

2012年に発足したメディカル・ワークライフバランスセンターも、早や4年目を迎えました。この間、女性の職場と家庭の両立に向けて多くの成果をあげてきました。安倍内閣は政権発足に当たって「女性が輝く日本」を最重要課題として挙げました。私たち長崎大学病院は、すでにメディカル・ワークライフバランスセンターが中心になって女性の育休取得や職場復帰を推進しています。たとえば、6ヶ月以上の育児休業を取得した女性医師、あるいは2週間以上の育児休業を取得した男性医師のいる医局にはインセンティブを与えることを真剣に検討しています。日本は今、少子化対策が急務です。女性の年齢別就業率を国別で比較すると、日本では20代より30代の就業率が落ち込みます。これは出産、育児に専念するために職を離れる人が多いからです。では、そのような国ほど子供が多く家庭が充実しているのかといえばそうではなく、日本と同じように30代の就業率が20代より落ち込む国ほど合計特殊出生率は低い傾向があります。

人生は働くことだけが全てではないし、子供を産み育てることだけが全てでもありません。大事なのは「バランス」です。各人にとっての最適なバランスを探ること、メディカル・ワークライフバランスセンターはこれからも「ワーク」「ライフ」バランスを考え、みなさんの人生の「ビジョン」を応援します。

応援メッセージ



一般社団法人 長崎県医師会
会長 蒔本 恭

長崎の医療の充実のためにも子育て中の医師を支えようという取組みの一環として、2014年4月に「長崎県医師会保育サポートシステム」が発足しました。同年6月から本格的に活動を開始し、利用者である医師、支え手である市民の皆さんへの周知を図っているところです。5月、9月、2回の研修会や新聞紙上への掲載などを経て市民センターは10月現在で60名ほどになり、医師の多様なリクエストにも対応できる状態に近づいてきました。市民の皆さんとの「医師を支えたい」という温かい気持ちが感じられます。

その市民の「意欲」を実際に「支援」という形にして医師に届ける上で、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターの果たす役割は重要です。医師の具体的なニーズの把握やセンター情報の適切な提供のおかげで、細やかな配慮をしながらのスピーディーな斡旋が可能になります。長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターと県医師会とのコラボレーションによって、子育て中の医師が心置きなく医療に従事し、忙しい中でも充実した日々が送れるよう、そして長崎の医療がますます発展していくことを願ってやみません。



長崎県福祉保健部医療人材対策室
室長 村田 誠

今や「まち・ひと・しごと」が全国的なキーワードですが、離島を多く抱え、人口減少と高齢化が全国に先がけて現実の問題となっている長崎県では、「人が輝く、産業が輝く、地域が輝く長崎県づくり」を県政の基本理念に掲げ、一人ひとりをきめ細かく支える体制づくりを目指しております。高齢化の進展や疾病構造の変化、医学の進歩等による医療を取り巻く環境の変化に対応するためには、地域医療を担う人材の確保は大変重要な課題です。

その上で、平成24年度より「医療におけるワークライフバランスセンター事業」を長崎大学病院に委託し実施していただいていると感謝しております。センターには、相談窓口の設置、潜在医師の把握によるネットワークの形成、情報発信、復職トレーニング、病院管理者への普及啓発などワークライフバランスにかかる多岐にわたる活動を通して、就労環境の整備を着々と進めていると感謝しております。

多忙な医療現場の中で、女性も男性も共に働きやすい環境を整えることにより、医療の道を志した時の高い理想をいつまでも追い求め、働き続けることができる長崎県を目指して、今後ともご協力をいただきますよう宜しくお願い致します。

1. プロジェクトの概要と目的

1 あじさいプロジェクトとは

あじさいプロジェクトは、長崎県全域を対象に医師が仕事と生活の両立を実現するための支援とその環境整備を推進するプロジェクトです。メディカル・ワークライフバランスセンター（H24年長崎大学病院内に開設）が中心となり、関係機関と連携してプロジェクトをすすめます。主な取り組みのキャリアサポートでは、医師としてのキャリアの継続・復帰支援のためのコンサルティング、復職トレーニングやイベントの企画を行っています。また、ホームページでさまざまな支援情報・イベント情報を発信。そのほか、県内のより多くの医療機関で仕事と生活の両立が可能な就労環境を整備していただくように働きかけています。トップセミナーの企画や、就労環境を整備する医療機関対象とした補助金事業などを実施しています。

2 メディカル・ワークライフバランスセンターについて

平成24年4月、長崎大学病院内にメディカル・ワークライフバランスセンターが開設されました。

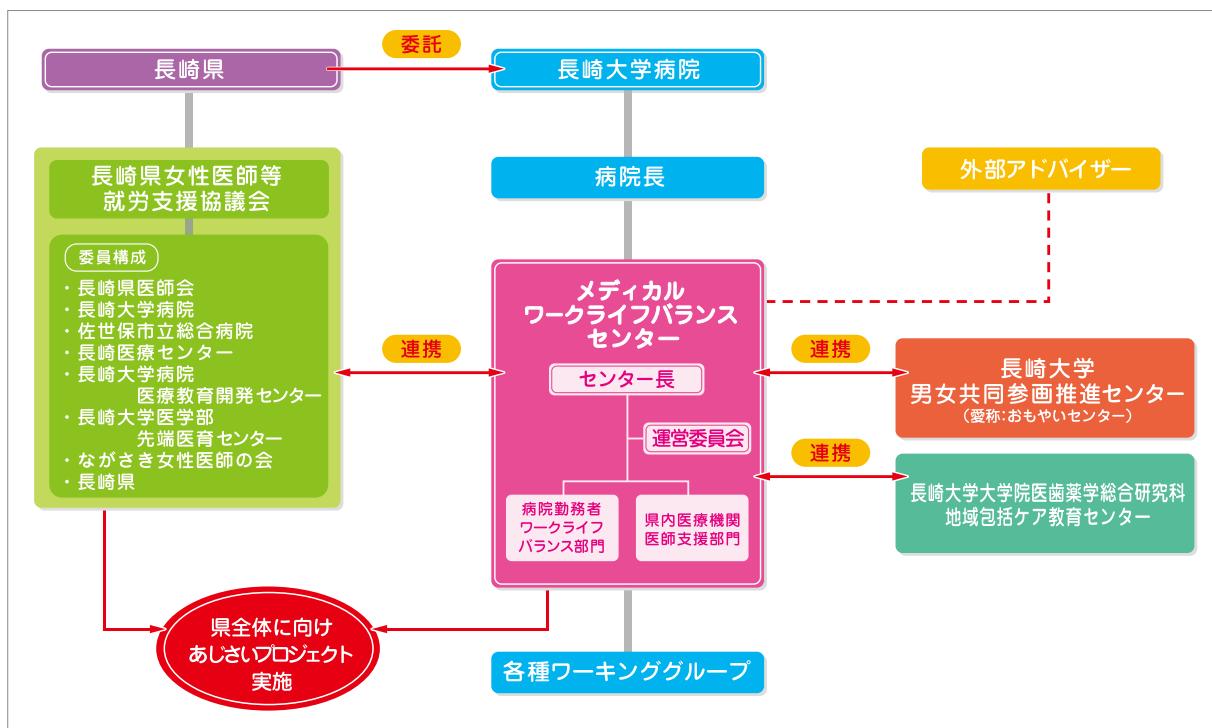
「ワークライフバランス」は、単に仕事以外の生活の充実を目指すものではなく、家庭生活、地域生活、自己啓発などを充実させて、生活全体のバランスをよくすることで仕事の充実を図り、また仕事の充実は生活による影響を与えるという、ポジティブなサイクル(synergy)を作り上げることです。その効果は、個人だけでなく、家庭・地域・職場にもたらせることが期待されます。ひとり一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域社会においても、ライフステージに応じた多様な生き方が選択できる社会を作り出します。

ワークライフバランスが注目される背景には、少子化への危機感と人材確保への対策がありますが、最近はこれに重なって大介護社会の訪れがあります。育児と異なり、介護はいつまで継続するのか先が見えず、働き盛りの男性も含んだあらゆる医療人にとって離職を余儀なくされる状況発生の可能性を認識し、自分のライフサイクルに合わせて家庭と仕事の両立を維持できることが必要な時代となっています。

このメディカル・ワークライフバランスセンターは、長崎大学病院の「医療人」を対象に、医師の復帰・就労維持支援、仕事と生活の両立の可能な職場環境整備、および次世代の医療を担う医療人の育成支援に努めていきます。その実現には、組織としての取り組みと同時に、各医療人の意識変革も重要です。また、メディカル・ワークライフバランスセンターでは、あじさいプロジェクトと称して、長崎県・長崎大学男女共同参画推進センター・長崎県医師会・ながさき女性医師の会と連携しながら、まずは長崎県内医療機関で勤務する医師を対象に働きやすい職場、やりがいを持ってイキイキと活躍できる医療現場を目指して活動します。



3 あじさいプロジェクト運営組織図と連携機関



メディカル・ワークライフバランスセンター

長崎県女性医師等就労支援協議会

長崎県の女性医師等就労支援事業について、関係機関の代表の委員から構成される協議会で、行政（長崎県）が開催。関係機関がどうやって協力して課題を解決していくかを審議する。

長崎県医師会 <http://www.nagasaki.med.or.jp/>

長崎大学男女共同参画推進センター（おもやいセンター）

広報・啓発推進部門、ワークライフバランス推進部門および女性研究者支援部門の3部門を柱にして、長崎大学の男女共同参画推進を進めている。 <http://www.cge.nagasaki-u.ac.jp/about/index.html>

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター

つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築～人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成～
<http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/index.html>

ながさき女性医師の会

女性医師にとっての現状や将来を見据えて、長崎県在住の女性医師を対象に”女性医師の集まり”を結成。さまざまな情報を交換し、お互いを支援している。 <http://nagasaki-joj.net/gaiyo.html>

長崎大学病院医療教育開発センター

長崎大学病院の医師・歯科医師・看護師・薬剤師・コメディカル等の教育部門が集結し、全職員の生涯教育に責任を持つ部署として機能。 <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/kaihatu/>

長崎大学医学部先端医育センター

医学教育の支援する目的で設立され、医学教育情報発信する。
<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/medu/index.html>

<長崎県内の拠点病院>

長崎大学病院 <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp>

国立病院機構長崎医療センター <http://www.hosp.go.jp/~nagasaki/>

佐世保市立総合病院 <http://www.hospital.sasebo.nagasaki.jp>

4 あじさいプロジェクト ホームページからの発信



あじさいプロジェクトホームページは、メディカル・ワークライフバランスセンターが開設された平成24年度から公開しました。長崎県内で働く医師・長崎大学病院に勤務する医療人にとって、働きやすい環境を整備するため、ワークライフバランスに基づいた働きがいや働くうえでの幸せを感じられる職場づくりを目指すための施策などを情報発信しています。

情報発信の3つの柱は、「キャリアサポート」「両立サポート」「長崎県内病院の取り組み」のテーマ別にアクセスすることができます。

平成26年12月には、ホームページをリニューアルしました。トップ画面の変更、情報の整理、コンテンツの追加を行い、投稿記事の検索機能を追加することで、ご希望の情報にアクセスしやすいウェブサイトに改善しました。リニューアル後も随時内容の充実に努めてまいりますので、ぜひ、当ホームページを「お気に入り」にご登録いただけた幸いです。(http://nagasaki-ajisai.jp)

メディカル・ワークライフバランスセンターでは、キャリアサポートの一環として「復職&リフレッシュトレーニング」を開催していますが、時間制約のある方に効率よく修学の機会を提供するため、医師を対象とした東京女子医科大学のe-ラーニングサイトのバナーを設置しました。e-ラーニングを通じて、医師のキャリア、臨床で必要な基礎、実践、また、がんの4つのカテゴリーで様々な講義が用意されており、大変便利なシステムですので、ぜひご利用ください。

5 病院インターネットからの発信

長崎大学病院のインターネット内に、メディカル・ワークライフバランスセンターの職員用ホームページを公開しています。あじさいプロジェクトホームページとリンクしています(電子カルテからは外部サイトにつながらないよう設定されていますので閲覧できません、ご了承ください)。

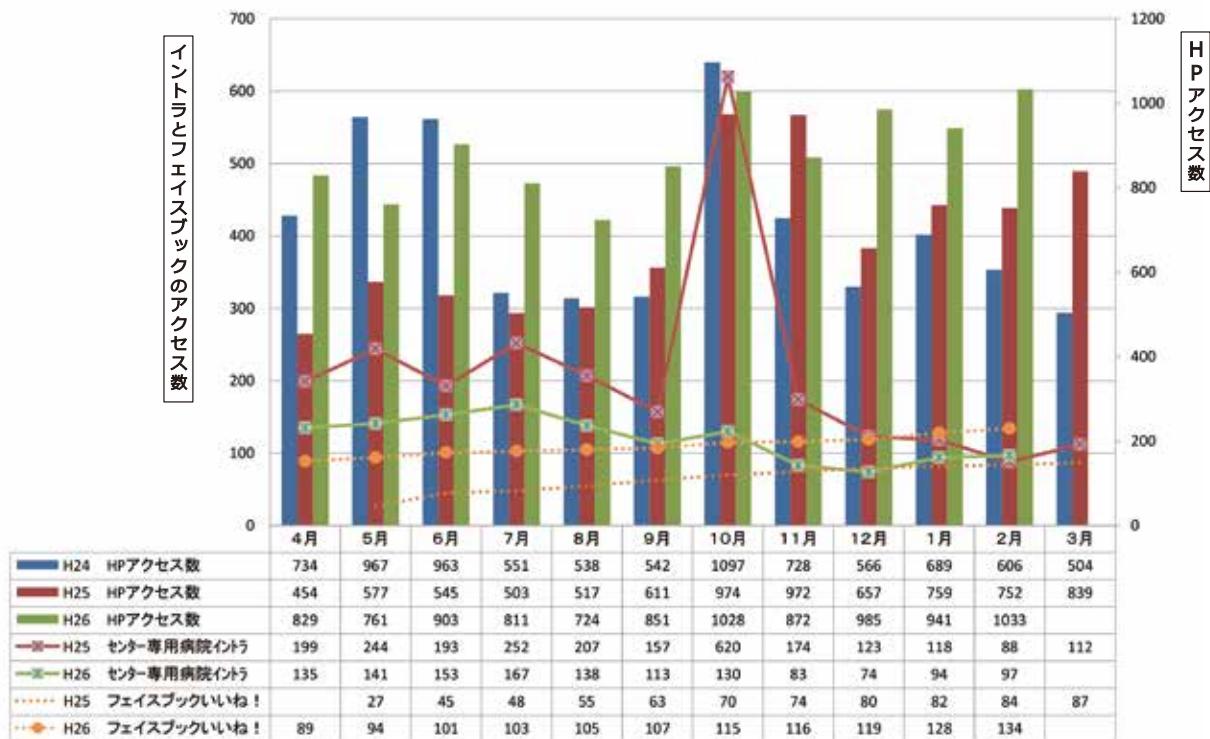


6 Facebookからの発信



長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターのフェイスブックは、平成25年5月から参加しました。ホームページと併用することで、より多くの方への情報発信が可能になりました。平成27年2月現在で134名の方が当センターと「いいね!」でつながってくださいました。毎回、投稿記事に対しても反響をいただき、励みになります。

あじさいプロジェクト アクセス比較



平成27年2月28日時点

7

あじさいプロジェクト通信(メールマガジン)からの発信

メディカル・ワークライフバランスセンターへメールアドレスをお知らせいただいたみなさん(約790名)へ、約月1回のペースでメールマガジンを発信しています。イベント開催のお知らせや活動報告、ワークライフバランス実現への施策などを紹介しています。

vol.11	2014年5月21日発信	告知6件 報告 5件 合計11項目
vol.12	2014年6月27日発信	告知7件 報告 5件 合計12項目
vol.13	2014年8月1日発信	告知6件 報告 5件 合計11項目
vol.14	2014年9月30日発信	告知7件 報告 9件 合計16項目
vol.15	2014年10月28日発信	告知5件 報告 6件 合計11項目
vol.16	2014年12月5日発信	告知6件 報告10件 合計16項目
vol.17	2015年2月3日発信	告知4件 報告 8件 合計12項目
vol.18	2015年3月発信予定	

<発行メールマガの一例>

あじさいプロジェクトへメールマガ登録してくださった皆様、
当センターへメールアドレスをお知らせいただいた皆様、こんにちは。
長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターです。
現在、または将来役立つ情報をこのメールマガで発信していきたいと思います。
今後とも、当センターの活動にご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします！

「働きやすさ」と「働きかた」を感じて仕事に取り組める環境整備を中心に考えています。
センターが推進する【あじさいプロジェクト】はワークライフバランスの理念に基づいています。
ワークライフバランスとは、充実したライフを得るために、ほどほどに働くという考え方ではなく、
ワークとライフの相乗効果を狙ったものです。

12項目です。お目通しあ願いします。■告知4件 ▼報告8件

■facebookいいね！お願いします♪
随時役立つ情報を発信中です。「いいね！」応援待ってます♪
[=https://www.facebook.com/nagasaki.mwlb](https://www.facebook.com/nagasaki.mwlb)

■女性医師の現況確認にご協力をお願ひいたします！
働きやすい環境づくりのためにセンターの活動にご賛同いただき、
趣旨ご理解のうえ、回答のご協力をお願ひしています。
[=http://nagasaki-ajisai.jp/careersupport/wd-network](http://nagasaki-ajisai.jp/careersupport/wd-network)

■長崎大学病院各診療科メッセージを更新しました
昨年より各診療科に「ワークライフバランス推進員」を任命し、
組織や個人にワークライフバランスの推進を働きかけていただいている。
[=http://nagasaki-ajisai.jp/hospital-support/information-university/various-support#link16](http://nagasaki-ajisai.jp/hospital-support/information-university/various-support#link16)

▼第5回復職＆リフレッシュトレーニングを開催しました
「急変対応の基礎 -BLSと初期蘇生術-」をテーマとして、講師の長崎大学病院
救命救急センター山下和範先生にBLS実技講習を行っていただきました。
[=http://nagasaki-ajisai.jp/careersupports/7651](http://nagasaki-ajisai.jp/careersupports/7651)

▼保育サポートシステム スキルアップ研修会を開催しました
長崎県医師会と連携し、育児支援を必要とする子育て医師に対して、
コーディネーターがそれぞれのニーズに沿った保育サポートの情報提供・紹介を行っています。
[=http://nagasaki-ajisai.jp/activity-reports/7741](http://nagasaki-ajisai.jp/activity-reports/7741)

▼「平成26年度女性医師の勤務環境の整備に関する講習会」を開催しました
病院長、病院開設者・管理者の方を対象に「勤務医のワークライフバランス」と題して、
京都市立病院院長内藤和世先生にご講演いただきました。
[=http://nagasaki-ajisai.jp/careersupports/7687](http://nagasaki-ajisai.jp/careersupports/7687)

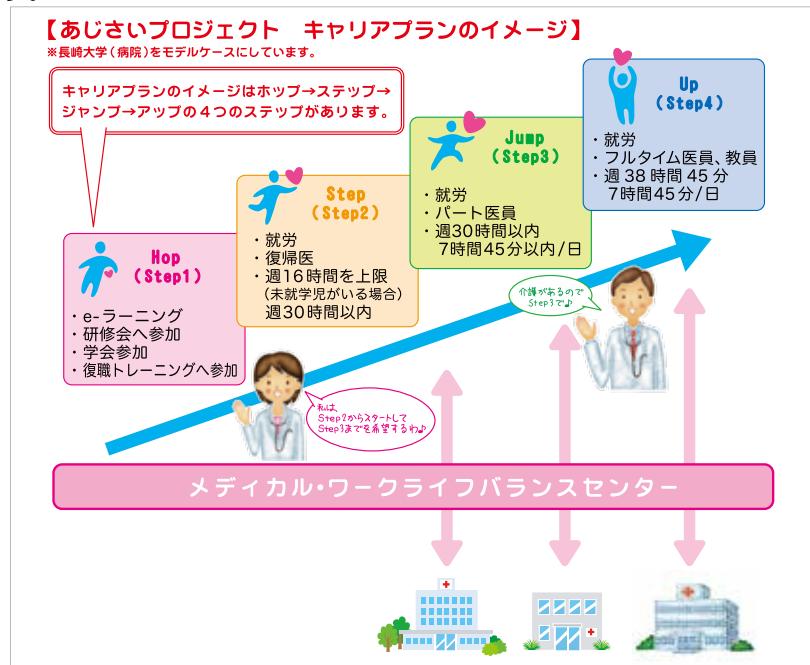
2. 兩立支援活動

1 キャリアサポート

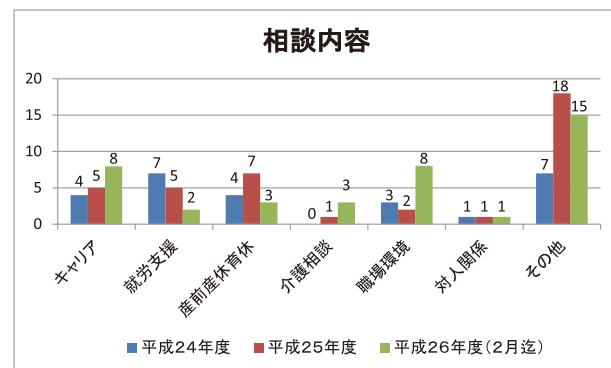
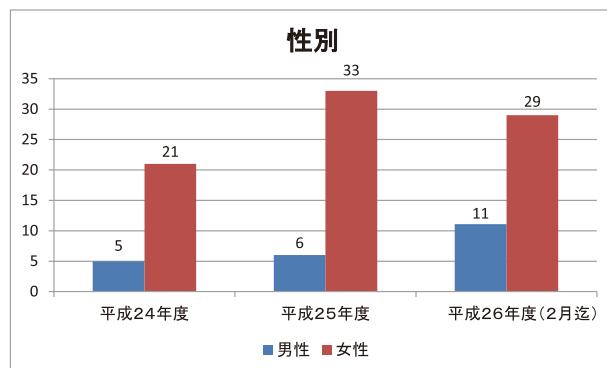
自分らしくキャリアを継続するために、ライフステージに応じた働き方を一緒に考えていきます。

1) キャリアコンサルティング

メディカル・ワークライフバランスセンターでは、出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ、キャリア支援のためのコンサルティングを行っております。



【相談者の性別、相談内容集計】



【申し込み方法】

あじさいプロジェクトホームページのお問い合わせ・お申し込みフォームをご利用いただくか、センターへ直接お電話ください。

後日、窓口担当からご連絡し、担当コーディネーターと面談の日程調整を行います。

面談後、ご自身に合ったキャリアプランの作成をお手伝いします。



お問い合わせ・お申込みフォーム
(一般・学生用)

お名前(姓)	姓 <input type="text"/> 名 <input type="text"/>
ふりがな(漢)	姓 <input type="text"/> 名 <input type="text"/>
性別	男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/>
年齢	
年齢(誕生日) 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/>	
学年	
学年(誕生日) 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/>	
メールアドレス(返事メール用)	
<input type="text"/>	
お問い合わせ内容	
お問い合わせ内容(メールアドレスを記入して下さい)	
性別	
男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/>	

お問い合わせ内容

□ キャンペーン情報について(最新コース・セミナー等を含むセミナー等)

□ 会員登録へ登録するか(会員登録へ登録する場合は会員登録を希望)

□ 既存会員登録用アカウントで登録を希望

お問い合わせ内容

□ 会員登録用アカウントについて

□ 会員登録について

□ 会員登録用アカウント登録について

□ 会員登録用アカウント登録について

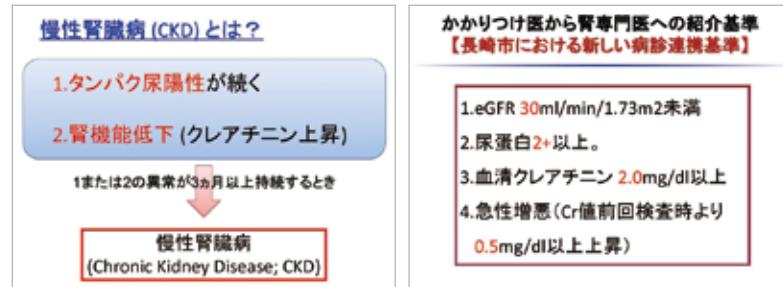
2) 復職&リフレッシュトレーニング(全5回)

復職&リフレッシュトレーニングは、育児・介護等で休職・離職中の医師に医療現場との気持ちの距離を縮めてスムーズな復職を促すプログラムです。就労中の方も、知識をリフレッシュしたい方はご参加いただけます。

これまでの復職&リフレッシュトレーニングの講義を録画したDVDをレンタルしています。視聴をご希望の方は、センターまでご連絡下さい。

第1回 CKD(慢性腎臓病)って何?

日 時：平成26年6月6日(金) 14:00～15:15
 講 師：長崎大学病院第二内科 浦松 正 先生
 場 所：長崎大学病院シミュレーションセンター(外来棟7階)



参加者は、離職中の方や復職されたばかりの方、現役の方など、合計10名で、これまでに参加したことのある先生は、内6名でした。

今年度の第1回は、腎臓のお話でした。最近良く耳にする、“CKD”について、たくさんのデータを入れつつ、わかりやすく説明していただきました。蛋白尿は多くないほうがいいこと、eGFRは経過を見ていくこと、かかりつけ医から腎専門医への紹介基準、“慢性腎不全”との違いなど、これまでに説明したことなく、今後の診療に役立つお話を聞きました。浦松先生からいただいた資料を、ゆっくり見直して復習すると、さらに理解が深まると思いました。同門の腎臓内科医の先生が、某病院のマスコットゆるキャラ発案者だという話も、頭にしつかり残りました。

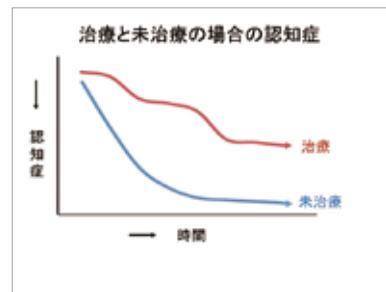


・とてもわかりやすい話をありがとうございました。
 いただいた資料もとても役立ちそうです。

・研修医時代の知識しかなく、大変勉強になった。外来していく不安に思うことが、はっきり対応できそうな気がする。

第2回 認知症は薬で治るか?

日 時 : 平成26年7月22日(火) 14:00~15:15
 講 師 : 長崎大学病院精神科神経科 黒滝 直弘 先生
 場 所 : 長崎大学病院シミュレーションセンター(外来棟7階)



4つの抗認知症薬			
商品名 アリセプタ (ドカベジルチエトアミド)	レニニールガラシアブラン セモスチニブ	リバストリチオバタード リバストリチウム	メトロノ (メトロノキサゼン)
会社 ピーライ ファイザー	ゼンケンファーマ 武田薬品	小野薬品 ノバルティスファーマ	第一三共
発売年 1999年	2011年	2012年	1998年
適応 AD,LHD	AD	AD	AD
主な用法 一日一錠 3→6→12mg Q.IW	4→8→12→16mg QIW →16mg QSO	4.8→9→13.2 →16mg QSO →24mg QSO	Acetylcholinesterase inhibitor 60mg
特徴 プロテクション エコタービゼット セレクターセレクト 複数薬との相互作用 妊娠中の有効性 主 使用注意 妊娠産業	ニコチニウムアセチルガム セロネン	アザチロニド エスクラーゼ副腎 脳血管狭窄症候群	ADの治療薬 各薬との併用可 頭部痛への治療

参加者は、7名でした。離職中の方や現役の方などで、これまでトレーニングに参加したことのある先生は、内4名でした。

“認知症”は、患者さん・家族・もしかすると自分のこととしても避けて通れない話題になっています。2013年4月より長崎大学病院内に新設された、長崎県基幹型認知症疾患医療センター副センター長でもある黒滝先生にお薬で治るのか?というサブタイトルで、お話しいただきました。「的確な治療は効果がある」ということで、この数年で4種類に増えた抗認知症薬について、その使い方、使い分けを先生の感触も交えて、丁寧にご説明いただきました。二次性認知症の除外は大事、抗認知症薬は添付書の手順に沿って、投薬開始後の副作用チェックも大事だということです。トレーニング所要1時間で、抗認知症薬についての理解がぐっと深まったと思います。



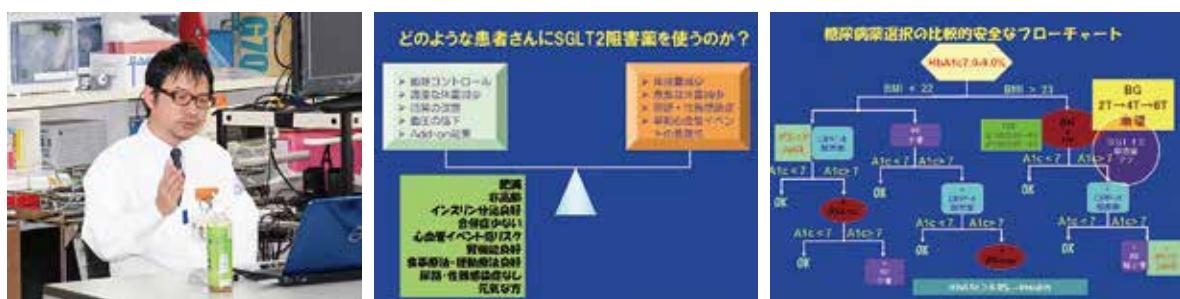
・新薬の使い分けがよくわからなかつたが、今回受講して頭の整理ができた。

・認知症への具体的な対応方法がわかつてよかつた。



第3回 最近の糖尿病薬、どう使う？

日 時：平成26年9月19日(金) 14:30～15:45
 講 師：長崎大学病院第一内科 阿比留 教生 先生
 場 所：長崎大学病院シミュレーションセンター(外来棟7階)



新薬登場とあって、参加申し込みは18名と最多タイ記録。諸事情で当日参加は、申し込みの12名+飛び入り参加1名の先生方で合計13名でした。離職中や現役の方などで、これまでトレーニングに参加したことのある先生は、内10名でした。

今回は、糖尿病、特に治療薬の選択についてのお話でした。2010年にDPP4阻害薬が発売され、新しい治療の流れができたところに、今年、また新しくSGLT阻害薬が発売開始となりました。全部で7種類の治療薬をどのように使い分けるのか、作用機序も含めて丁寧に教えていただきました。

長崎はシュガーロードの始まりの土地とあって砂糖の使用量が多いようで、全国で1位2位のBMIの高さを誇っており、糖尿病の予防から適切な治療まで、気をつけないといけない土地柄のようです。HgbA1cは7%を超えないように、治療を考えましょう。



・知識の整理をさせていただきました。ありがとうございました。

・難しい内容を野球のピッチャーやキャッチャー、労使関係に例えてご説明されたので、イメージしやすく、わかりやすいう感じでした。

第4回 抗菌薬・抗ウイルス薬の使い方

日 時：平成26年11月6日(木) 15:15～16:30
 講 師：長崎大学病院検査部 森永 芳智 先生
 場 所：長崎大学病院シミュレーションセンター(外来棟7階)



時期的にそろそろ、咳の出る患者さんやインフルエンザの患者さんが出てきているということもあり、関心の高さから当日飛び入りの参加4名を合わせ、申込18名、参加14名でした。また、これまでに参加したことのある先生は、5名でした。

抗菌薬・抗ウイルス薬に苦手感のある先生は少なくないと思います。森永先生は、薬物動態学 (Pharmacokinetics, PK) と薬力学 (Pharmacodynamics, PD) の組み合わせPK/PDにより、抗菌薬の使い方を考えることを話されました。

濃度依存性のキノロン系薬はピークをあげるために高用量で使用すること、時間依存性のβ-ラクタム系薬は最小発育阻止濃度を超えている時間を長くするために回数を増やすこと、そして耐性菌を作らないような使い方をすること。また、各抗菌薬の抗菌スペクトルの説明と使用的ポイント、市中肺炎や、医療・介護施設での肺炎、誤嚥性肺炎についての対応も丁寧に教えていただきました。インフルエンザは、迅速診断で陰性でもPCRではウイルスが存在することがあるので、症状から疑わしいときは治療を開始することでした。

最後に、微生物を同定する質量分析装置「MALDI-TOF MS」によって、診断日程が1-2日早くなり、コストが2000円→100円へ節約できるようになった話題から、会場を移動し、実際に検査部微生物検査室にある「MALDI-TOF MS」を見せていただきました。

最新の機器での検査の流れをご説明いただき、見学ツアー参加者5名の先生は興味津々のようでした。検査部の皆さん、ご協力ありがとうございました。



参加者の声

・普段臨床していますが分野が違うと忘れていくので勉強になりました。

・苦手な分野の知識を整理できる機会ができて良かったです。主に現在は施設への往診をしているので、使用する抗生剤を今後しっかり考えて使用したいと思います。

第5回 急変対応の基礎 -BLSと初期評価-

日 時：平成27年1月19日(月) 14:00～15:45
 講 師：長崎大学病院救命救急センター 山下 和範 先生
 場 所：長崎大学歯学部本館2階 シミュレーション室



定員8名でしたが、1名欠席により、参加7名でした。初参加は2名で他5名はこれまでのトレーニングに参加したことのある方でした。地域病院から4名、院内から3名で、「不安解消と再確認のため」にご参加いただきました。

AHA(アメリカ心臓協会 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン)は、5年毎に改定されるので、過去に受講経験のある方も、変更点を確認しながら、最新の情報を習得されていました。近年は、いち早く、中断の少ない胸骨圧迫が重要視されているとのことです。

急変患者のアプローチ方法に沿ってBLS人形を用いて、心肺蘇生のシミュレーションをしました。

1回につき5cm、1分間に100回以上のペースでしっかりと胸骨圧迫することは、想像以上に体力が必要のようでした。2人態勢で対応できた場合、1人で最長2分間(体力の限界)のあいだ有効な胸骨圧迫を行うとなると、もう1人がマッサージの邪魔をしないようにAEDをセットアップし、声かけしながら交代したりと、2人の連携が重要だと感じました。その後、急変についてのレクチャーや、高機能シミュ

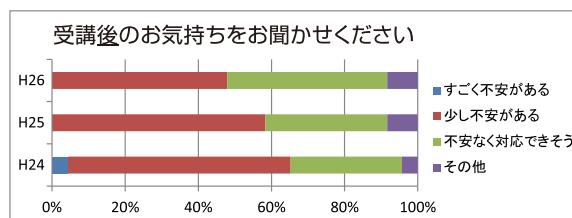
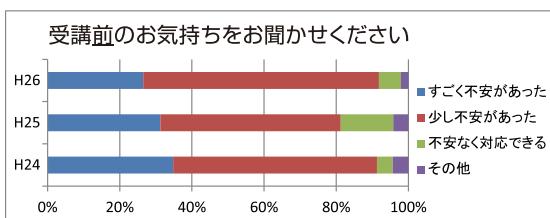
レーターMETI manを用いてBVMの使い方のコツなどを教えていただきました。最後の質疑応答では、「自動心臓マッサージを装着して搬送されてきた場合の対応は?」「気管内挿管のタイミングは?」などの質問に、山下先生が丁寧にご回答くださいました。



参加者の声

・わかりやすかったです。ACLSも興味があります。

・長らく急変対応する場面にいないので、本日は実技もあり少し不安が減りました。気管内挿管もできたらよかったです。



トレーニング受講後には、青色の「すごく不安がある」という気持ちを軽減することができます。

3) イキイキ働く女性医師のための美と健康セミナー(全3回)

「美と健康セミナー」は、健やかに、美しく活躍したい女性医師の皆さんそのためのセミナーで、働く女性にうれしい身体ケアの最新知識を、3回シリーズでお届けします。これから元気に活躍するためのビジョンについて、一緒に学び合います。夜間開催のため、子育て医師のための託児室を用意しています。

第1回 美と健康セミナー「うつ病治療のポイント、精神科への紹介のタイミング」

日 時 : 2014年5月28日(水) 19:00~20:00

場 所 : 長崎ブリックホール3階

講 師 : 畑田 けい子先生

主 催 : 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター、グラクソ・スミスクライン株式会社、
長崎県医師会

第1回は、「うつ病」がテーマで、いろいろな診療科の先生16名にお越しいただきました。

うつ病は13人に1人という少なくない罹患率なので、日常診療で悩んだ経験を持って聞きに来ていただいたと思いますが、その悩みを解決してくれるような、すっきりとわかりやすい講演でした。

難しい質問にも丁寧にお答えいただき、専門の先生への紹介のタイミングをつかんだと思います!



講師
道ノ尾病院
畠田 けい子先生



座長
長崎北病院 副院長
瀬戸 牧子先生

参加者の声

- ・具体的な診療でのポイントや重要なポイントをわかりやすくご説明いただき、大変勉強になりました。診療時に心の病気についても気にかけながら患者さんへの対応を心がけたいと思います。
- ・現在育児真っ只中の私にとってこのようなセミナーはとても貴重でありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。産婦人科医としては、女性のライフスタイルをテーマにした話も興味があります。
- ・大変クリアで理解しやすい内容でした。精神科は専門医と非専門医(身体科医)間に壁の大きな科で、実際になかなか紹介に結びつけることが難しい、ためらうという話をよく聞きます。今日のような会で、顔の見える関係が作れることが、一番の収穫だったのではないかと思いました。

第2回 美と健康セミナー「骨粗鬆症」

日 時：2014年9月11日(木) 19:00～20:00

場 所：長崎大学病院新中央診療棟1階 放射線部カンファランス室

座 長：松本 智子先生

講演1講師：伊藤 有里子先生

講演2講師：玉井 慎美先生

共 催：共催：長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター、中外製薬株式会社、長崎県医師会

「骨粗鬆症」をテーマに、整形外科と内科の先生からお話を伺いました。参加女性は10名で、講演後の情報交換会は少ない人数ながら盛り上がっていました。

講演1は、整形外科サイドからで、がん検診と比べて、検診受診率が少ない骨粗鬆症、命にかかわる疾患だと思われていないことが問題のひとつのようにです。ところが、事実は生命予後にも大きく関係することが示されました。骨粗鬆症→骨折→寝たきりにならないために、10代からはバランスの良い食事と運動、40代からは、日常生活に運動を取り入れ転倒しない体をキープすると良いそうです。グランドでのウォーキング、背筋運動、開眼片足立ち体操、スクワットなど…やってみようと思いました。

講演2は内科サイドからで、関節リウマチの患者さんは、その病気自体が骨粗鬆症になりやすく、ステロイドの使用・閉経・ステロイド性糖尿病などの要因が加わり、さらに骨粗鬆症になりやすく、骨折のリスクが高まるそうです。2014年版の治療ガイドラインを示されて、ステロイドによる骨量・骨質の低下を防ぐ考え方を教えていただきました。



講演1講師
岡崎整形外科医院
伊藤 有里子先生



講演2講師
長崎大学病院第一内科
革新的予防医科学研究教育拠点
予防医科学研究所 講師
玉井 慎美先生



座長
あじさいクリニック院長
松本 智子先生

・同じテーマでも他科の先生のお話が聞けるのが新鮮です。充実した時間に感謝申し上げます。

・骨粗鬆症の基礎的な話と専門的なRA(ステロイド骨粗鬆症)の話で両方とも興味深かったです。

内科的な話は専門外の私にとっては少し難しかったです。

・わかりやすく、勉強になりました。

参加者の声

第3回 美と健康セミナー「女性ホルモン製剤の効用と使い方」

日 時：2014年11月20日(木)19:00～20:00

場 所：ベストウエスタンプレミアホテル長崎 6階内外スイート

座 長：北島 百合子先生

講 師：蓮尾 敦子先生

主 催：バイエル薬品株式会社

今年度の最終回となりました第3回美と健康セミナーのテーマは、「女性ホルモン製剤の効用と使い方」でした。講師の蓮尾先生は、毎日多くの患者さんを診療されている人気の先生です。産婦人科をはじめ、他のさまざまな診療科から、テーマに興味を持たれた21名の先生方がお越しくださいました。

ホルモン製剤は、覚えきれないほどたくさんの種類があり、新薬も出てきています。それで治療できる月経困難症、月経前緊張症、過多月経について、ベネフィットとリスクについて話されました。また、ホルモン補充療法により、終生にわたって、健やかで美しい女性になれるなどを教えていただきました。

講演後には、診療科の分野を超え、次々と質問が飛び交いました。

引き続き盛り上がった情報交換会でも、蓮尾先生は質問攻めでした！



講師

みやむら女性のクリニック
蓮尾 敦子先生



座長

済生会長崎病院
北島 百合子先生



参加者の声

- ・日頃気になっていることが少し解決しましたが、ホルモンの動きについてまだ頭の整理ができるない感じです。勉強します！乳房痛にピルという選択肢、とても有用でした。
- ・専門外の講義はとても勉強になります。更年期障害とホルモン治療についてもぜひ聞きたいと思いました。
- ・これからも女性特有の話題についてのセミナーを希望します。

2年間にわたり合計8回開催した「美と健康セミナー」は、分野を越えて専門の先生に最新の情報を教えていただけたこと、講師の先生の女性医師としてのキャリア形成が参考になること、情報交換会でネットワーク形成できることができたことが好評でした。次年度は1回のみの開催ですが、他の企画を検討しています。詳しくはメールマガジン“あじさいプロジェクト通信”でお知らせいたします。

4) 学生キャリア講習会

【日 時】 平成26年6月18日(水)8:50~16:10

長崎大学医学部3年生(約100人)の「医と社会」授業の一環で、『ワークライフバランス』について講義を担当させていただきました。1時限から4時限までの丸1日をかけて、"医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ"ことを目的として取り組みました。

午前は、伊東昌子センター長が「ワークライフバランスが築く働く人の未来」と題して講義を行いました。また、医師夫婦の仕事と生活の両立について3つの事例を挙げ、問題点、解決策、議論、結論をランチを交えながらグループワークを行いました。



伊東センター長



講義風景



グループワーク

グループ討論

仕事と育児の両立を目指す医師夫婦が抱える問題を、11グループに分かれて討論しました。参考資料として当センターが制作した【出産・育児のイロハ】を配布しました。学生たちが近い将来のことについて情報を持ち合わせていないこと、ある程度の想定を立ててキャリア形成を考えていく必要があることを感じてもらえたかと思います。

<問題の一例>

同級生カップルの2人は県外(熊本と札幌)の出身。卒業と同時に結婚して、長崎大学で初期研修を行いました。研修中に妊娠し、2年目に元気な女の子を出産しました。産前産後の計3か月の産休を経て、復帰し研修を無事修了しました。2人とも大学卒業当時には、後期研修は夫は心臓血管外科、妻は循環器内科を志望していましたが、いずれも呼び出しの多い診療科です。進路選択をどうしますか?



<学生たちの解決策>

- ・夫婦どちらかが後期研修先を呼び出しの少ない科に変える
- ・育児を親族またはベビーシッターにみてもらい、二人とも希望通りの科に進む
- ・夫婦のどちらかが医師を辞めるか、非常勤医師のような立場をとる
- ・1人が仕事、1人が子育てに⇒子どもが大きくなったらお互い仕事に専念
- ・家庭環境に理解のある医局で働く
- ・実家の近くで後期研修を行う
- ・親を呼んで面倒をみてもらう、親の元に子どもを預ける
- ・ベビーシッターを雇う
- ・育休を夫妻でバランスよくとる
- ・人生設計をあらかじめしておく⇒子どもが出来てから考えるのではなく、できる前からこのようにしたいというものを決めておく
- ・呼び出しが多い⇒あきらめて他の科に入る

<先輩医師のアドバイス>

- ・集中して修練を積まないといけない時期はある
- ・何ができるかではなく、何をしたいかを重視して決断していってほしい

午後は、現役でご活躍の院内の女性医師に加わっていただきました。グループワークの結果発表に対して、アドバイスやコメントなど、生の声を学生へ届けていただきました。その後、医療教育開発センターの松島加代子先生、第二外科の久芳さやか先生、当センターの南貴子副センター長のキャリア形成の体験談発表後、医師夫婦のロールモデルとして、心臓血管外科の谷川和好先生、産科婦人科の谷川輝美先生ご夫婦から講演をいただきました。その他にも、キャリア年表の作成や、講義前後アンケート実施など盛りだくさんの内容でした。学生のみなさん、大変お疲れ様でした。



医療教育開発センター
松島加代子先生



第二外科 久芳さやか先生



南副センター長



心臓血管外科 谷川和好先生



産科婦人科 谷川輝美先生

講義後の学生の感想は、

「すばらしかった」「参考になった」「参考にしたい」「ためになった」「面白かった」「興味深かった」「貴重であった」「良い機会だった」「将来がイメージしやすくなった」「新鮮だった」…等の意見が、6割以上ありました。

女子学生からは、「たくさんの先生方の生の声を聞くことができて、本当に良かった」という感想もありました。

男性医師のご登壇は、谷川和好先生だけでしたが、谷川医師ご夫妻の講演が良かったという声を複数いただきました。また、「あせつた…」「女性医師と結婚すると大変そう…」という感想もありました。

留学(国内・海外)の話も多かったので、そのような点も、学生さんには驚きだったようです。

講義にご協力いただいた医師の感想は、

「学生の時期に考える機会があると、意識改革の意味でとても重要だと感じた。人事を担う各診療科の先生方にも受講して欲しい」「このような機会に早期に接することができる学生たちは、これからちゃんとキャリアとビジョンを意識して計画的に進んで行けるのではないか」「自分なりに一生懸命仕事を続けていくことが何よりも大切だと思った。将来身近に同じ境遇で働く人が増えると、周りの理解も増え、子どもが成長すれば今度は精一杯働いて後輩を支えていく…そんな好循環が生まれてきそうな授業だった」などのご意見をいただきました。

調査の結果についてはP48参照。

5) ワークライフバランスに関するセミナー

●メディカル・ワークライフバランスセミナー2014～仕事と介護の両立を考える～

主 催：第一三共株式会社

後 援：長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター

講演I <演題>「アルツハイマー型認知症患者の周辺症状と介護負担度
-認知症治療薬(NMDA受容体拮抗薬)の効果-」



講演II <演題>「仕事と介護の両立のために～事前の心構えと働き方改革が重要」

【日 時】 平成26年10月29日(水) 18:50～20:30

【場 所】 長崎大学医学部良順会館2階 ボードインホール

【対 象】 長崎県内在住の医療従事者 長崎大学・病院職員

参加者は、長崎大学内の方26名と地域病院など学外の方55名の合計81名の来場がありました。

はじめに、主催者である第一三共株式会社より「ママリーの最近の話題について」の情報提供がありました。認知症の治療にあたり、薬物療法により効果を実感しやすい12症状について、該当する様子をチェックして、ご本人とご家族から医師へ伝えることができる、便利なチェックシートを紹介されました。周囲を気にすることなく症状を医療関係者へ伝えることができる有効な手段だと思いました。

講演I 「アルツハイマー型認知症患者の周辺症状と介護 負担度-認知症治療薬(NMDA受容体拮抗薬)の効果-」

座長：佐藤 聰先生 春回会長崎北病院 病院長

講師：芹田 巧先生 医療法人厚生会 道ノ尾病院 副院長

<ご講演の主な内容>

道ノ尾病院では、従来の精神神経疾患に加えて、近年認知症患者さんの入院が増加しているということです。Neurocognitive disorderと表されることもある認知症ですが、85歳以上の3割



は認知症、日本で800万人の認知症患者さんが存在するという現実をお話しされました。早期発見のバイオマーカーはまだなく、症状が出現したら早期に治療を開始し、積極的に介入することで、症状の進行を遅らせることができるようにです。悪化してしまうと、周囲とのコミュニケーションがとれず、介護者の負担が増します。道ノ尾病院での臨床研究の結果を示され、症状の改善は介護者の負担の軽減につながるため、薬物療法と、非薬物療法を組み合わせて、治療をしていくことが大事であることを話されました。

講演II「仕事と介護の両立のために～事前の心構えと両立マネジメントの基本～」

座長：伊東 昌子センター長 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター 教授

講師：佐藤 博樹先生 中央大学大学院 戦略経営研究科 教授

<ご講演の主な内容>

・子育てと違って、介護は誰でも直面する課題であるため、地震への心構えと同じように事前の心構えをしておくことが大事。

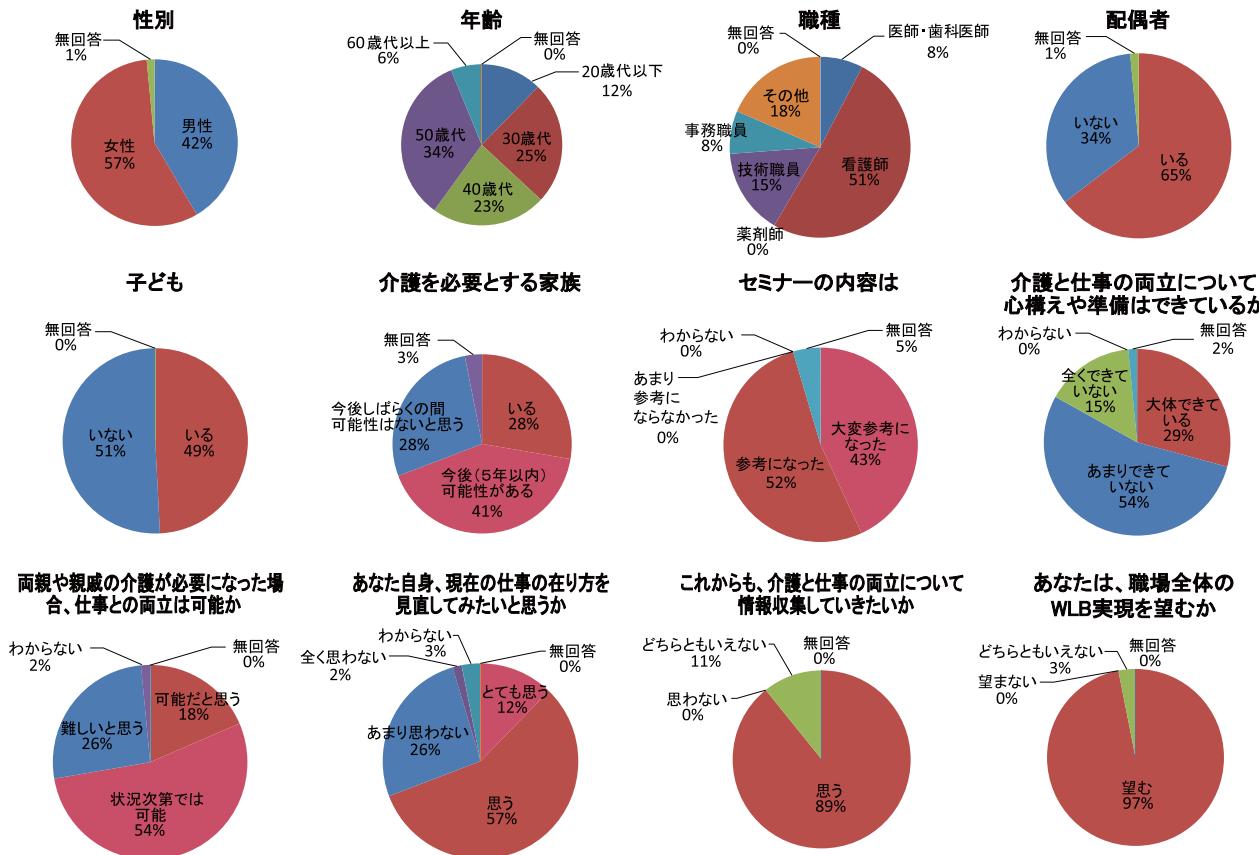
・職場で相談できる環境があるか、職場の介護休業のとり方をしているか、休業中に仕事がカバーされる仕組みか…など、子育てと同じように職場の環境整備も両立には大事。

しかし、子育てよりパターンは複雑であり、要介護者とその家族の状況を把握してくれる良いケアマネージャーさんを探すことでも大事。

・遠距離介護、見守りはマネジメント次第で可能なので、介護のために仕事を辞めないでよい。



～仕事と介護の両立を考えるセミナー～ アンケート集計結果



●管理職のための働き方改革セミナー

共 催：長崎大学男女共同参画推進センター
長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
講 師：中央大学大学院 戦略経営研究科 佐藤 博樹教授

【日 時】 平成26年10月30日(木) 13:30～15:00
【場 所】 長崎大学文教キャンパス 総合教育研究棟2階 多目的ホール
【対 象】 長崎大学職員 管理職(教員:教授、事務職:課長以上)



医療従事者の皆さんを対象にした「メディカル・ワークライフバランスセミナー2014」の翌日、講師の佐藤博樹先生(中央大学大学院戦略経営研究科教授)には、長崎大学職員を対象にしたセミナーにもご登壇いただきました。佐藤先生には、「ダイバーシティ・マネジメント～ワークライフバランス支援と女性の活躍の場の拡大～働き方改革が鍵」というテーマでお話しいただきました。

<講演の内容>

- ・「ダイバーシティ・マネジメント」とは、多様な人材あるいは人材の多様性(ダイバーシティ)を生かせる組織づくりを目指すこと。
- ・人材活用(管理職のマネジメント)の基本は、①社員が自分の担うべき役割を理解 ②社員が自分に期待された役割を実現するために必要な職業能力を保有(不足する場合は能力開発を支援) ③社員が高い水準の仕事意欲を持続すること。管理職は、部下に仕事を任せていくのが役割。部下の仕事を上司がやっていたら、本来のマネジメントができなくなる。

6) 平成26年度 女性医師の勤労環境の整備に関する講演会

主 催：長崎県医師会

共 催：日本医師会、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター

【日 時】 平成27年1月17日(土)15:00～17:00

【場 所】 長崎県医師会館

新たに医師となる人の3人に1人が女性であり、県内の医師のうち女性の占める割合は年々増加しています。ライフイベントによる離職を防ぎ、復帰支援を行うなど、ワークライフバランスを考慮した勤務環境の見直しが求められています。“あじさいプロジェクト”（県内の医師が働きやすく、働きがいのある病院をつくることを目的）を推進しているメディカル・ワークライフバランスセンターでは、この講習会を「トップセミナー」と位置づけ、事前に県内の155病院を対象に「医師のワークライフバランスに関する調査」を実施し、回答結果の発表と、当センターの取り組みを紹介しました。都市医師会会員など約20名のみなさんに講習会にご参加をいただきました。

調査の結果についてはP49参照。

講演I「子育て医師のための保育サポートシステムの運用と

長崎県医師会における女性医師支援活動～あじさいプロジェクトとの連携～

講師：伊東 昌子センター長 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター 教授

＜ご講演の主な内容＞

- ・長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターの概要説明
- ・長崎県医師会保育サポートシステムの概要説明、運用状況報告
- ・長崎県医師会との連携について（学生キャリア講習会、医師のワークライフバランスに関する調査の結果発表）
- ・あじさいプロジェクトの取り組み紹介（復職＆リフレッシュトレーニング）



講演II「勤務医のワークライフバランス」

講師：内藤 和世先生 地方独立行政法人京都市立病院機構 理事長/京都市立病院 院長

＜ご講演の主な内容＞

- ・10数年間取り組んでこられた勤務医問題を紹介
- ・京都市立病院の取り組み
- ・医師全体の勤務環境改善の紹介
- ・新しい専門医制度による課題
- ・勤務医と病院管理者の両者に対する問題提起
- ・日本一と自負される院内保育所の紹介



7) 医学生・研修医をサポートするための会

主 催：長崎県医師会
 共 催：ながさき女性医師の会、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター、長崎大学医学部先端医育支援センター、長崎大学病院医療教育開発センター、長崎県、日本医師会

【日 時】 平成26年6月30日(月) 18:30～20:30
 【場 所】 講演会:長崎大学医学部ポンペ会館(セミナー室)
 懇談会:医学部生協

<講 師>

- 安倍 邦子 先生
 長崎大学病院病理部 副部長 准教授
 ～双子のママと病理医の両立の苦労を乗り越えて！～
- 安部 恵代 先生
 長崎大学医学部公衆衛生学講座 准教授
 ～臨床一筋のはずが、ひょんなことから公衆衛生の道に～
- 黒崎 伸子 先生
 黒崎医院院長、国境なき医師団日本会長
 ～卒後20年に出会った人道的国際医療援助活動～
- 瀬戸 牧子 先生
 長崎北病院 副院長 神経内科・リハビリテーション科
 ～神経内科のプロー週末はガーデニングにもプロっぽく耕運機を操って…～
- 宗 陽子 先生
 長崎県医療政策課 課長補佐・壱岐保健所長
 ～産婦人科医から、行政の中の医療人へ～
- 藤田 利枝 先生
 長崎県福祉保健課 課長補佐・対馬保健所長
 ～手術室を出て、県内を飛びまわり、県民の健康をサポート～
- 本間 季里 先生
 長崎大学・医歯薬 リーディング大学院 准教授
 ～引きこもり医学生が、今は…!!!～



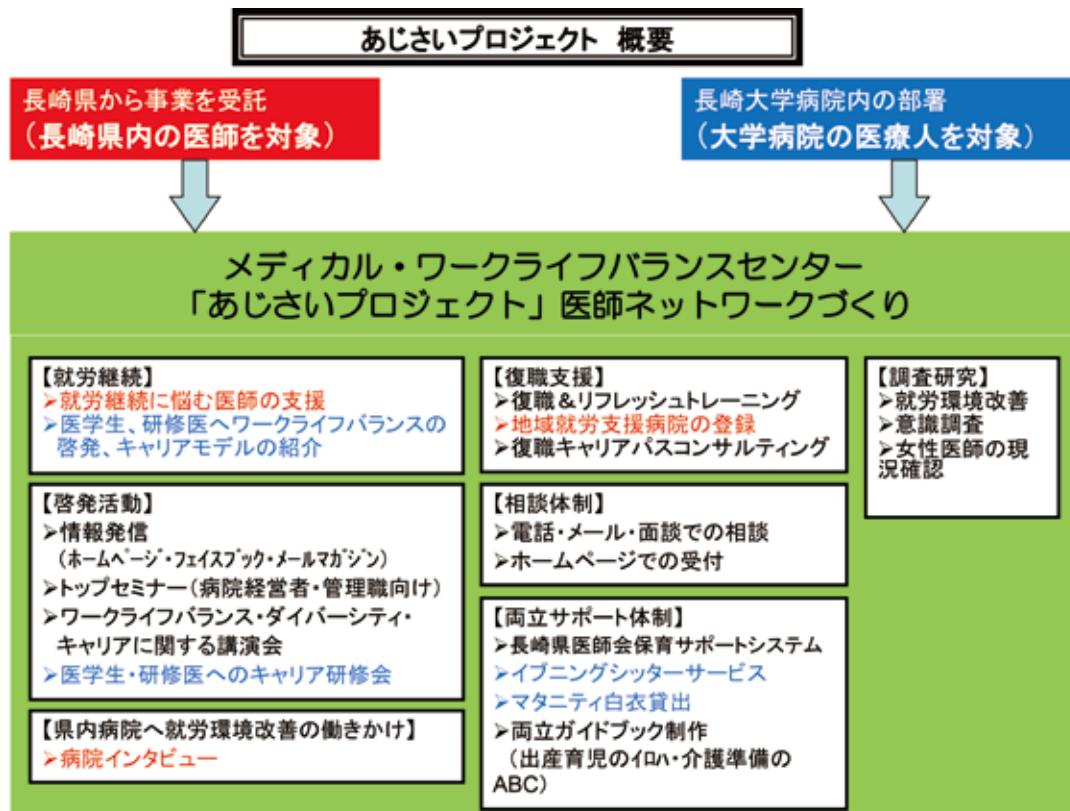
8) 女性医師ネットワークづくり

【女性医師の実状】

日本では、家事・育児・介護などの多くの女性が担い、仕事と家庭の両立が困難であることなどから、出産・育児期に多くの女性が離職しています。医師も例外ではなく、日本医師会の調査(平成21年)によると、女性医師の休職・離職理由は、出産が70.0%、育児が38.3%となっているそうです。

【現状確認調査とネットワーク構築】

メディカル・ワークライフバランスセンターでは、こうした背景を受け、2013年1月～2015年3月を調査期間として、「長崎県下の女性医師の現況確認調査」を行っています。調査目的は、女性医師の就労現況確認と潜在化した就労希望のある女性医師に向けての就労支援、およびネットワーク構築としています。



【調査を活用した支援体制の整備、支援の輪の拡大】

現在、調査の途中段階ではありますが、1098名の調査票発送のうち、返信が662名(60.3%)【2015年2月現在】と、私たちの期待に応えていただき、多くの返信がありました。引き続き、調査対象の拡大と、回答ご協力依頼を行っているところです。

調査結果についてはP54参照。

また、調査に回答された7割の方にメールアドレスの登録許可をいただいており、随時センターから情報発信を行っています。皆様からは、「将来相談するかもしれない」「センターがあることで安心して就労継続できそう」など、さまざまなお意見、ご要望が寄せられています。

【調査に寄せられたコメント抜粋】（個人が特定できないよう一部改変しています）

・4人の子育てを、環境に恵まれて、仕事から離れず続けられて感謝しています。（少しセーブしていた時期はあります）社会情勢が変化し、これから女性医師は悩みの質が変化していくことだと思います。いろいろな年代の多様な支えが必要と考えます。

・周囲に支えられて第一線で働いてきました。この1年体調を崩し、更に周りに迷惑をかけながら（日勤勤務のみで当直業務から外れています）何とか仕事をしています。今のところ医局人事でもあり、甘えさせてもらっていますが、今後はどうなることかと思っているところです。妊娠出産他で優秀な人材が埋もれているのではないかと思います。大変でしょうが、お力になれることがありましたら、お手伝いします。

・現時点で特に相談することはありませんが、いろいろな事情で離職したり、また、復職したりする場合、相談するところがあれば、特に卒業大学関係の相談所の存在は心強いと思います。

・子供は成長して少しづつ手は離れつつあります。今後は介護などで相談する必要性がでてくるかもしれません。イブニングシッター事業再開はとてもありがたいと思います。しかしもっと必要なのは急病の際の病児保育だと思います。子供が病気の際には親が付き添うべきと思いますが、休暇を取るための仕事の予定の調整（患者さんや関係部署への連絡など）をする時間（例えば、発病日の午前中など）だけでも預けられると非常に助かります。

・関東で暮らしていますが、こちらの方でも出産後フルタイムで復帰する人は少数です。大抵は週1～3回のアルバイトが多く、いわゆる大学などの職場に属した形でのパート復帰も少ないと感じます。今後このような状況が変化し、一旦フルタイムから同じ職場で週2～3回のパートに切りかえて働くなどが出来るようになるといいなと思います。

・漠然と不器用な自分には仕事か主婦かこの二者択一しかないと深く考えもせずに仕事を選んだ身には、この頃の女性医師の働き方の柔軟さがまぶしく思えます。

・仕事を辞めないで女性には働いてもらいたいと心から願っています。私の働いた病院には保健室とかもあったり、恵まれていたこともありました。そういうのを看護師さんと一緒に作っていただきたいものです。

この調査によって得られた貴重な情報を活用するため、「あじさいプロジェクトデータベース」を構築し、皆様に役立つ支援情報やサービス提供のための環境整備を行っています。センターでは今後も、各種調査やあらゆる研修の機会などを利用し、一層の情報収集と提供に努めたいと考えています。

調査期間は終了しますが、今後も継続して情報収集と更新作業を行います。対象の皆様で、下記のような内容の変更、決定事項がございましたら、当センターへご一報いただけすると大変幸いです。

- 「メールアドレス」の変更（勤務先が変更になっても連絡のとれるもの）
- 「勤務先」の変更
- 「産前産後休暇」「育児休業」および「介護休暇・休業」の取得期間が決まった
- 「復職日」が決まった

*長崎大学病院の医局に所属されている方は、

各医局のワークライフバランス推進員へお申し出ください

ぜひ、「あじさいプロジェクト」の活動にご賛同いただきますとともに、女性医師のネットワークづくりによって、今後さらなる支援の輪が広がりますよう、ご協力の程よろしくお願いいたします。

センターにメールアドレスを登録してくださった方に、あじさいプロジェクト通信（メルマガ）を配信し、活動報告やイベントの周知を行っています。

異動などにより、アドレスが変更になった際は隨時お知らせください。





2 両立サポート

育児や介護などのライフイベントを迎えて、安心して働くようサポートしています。

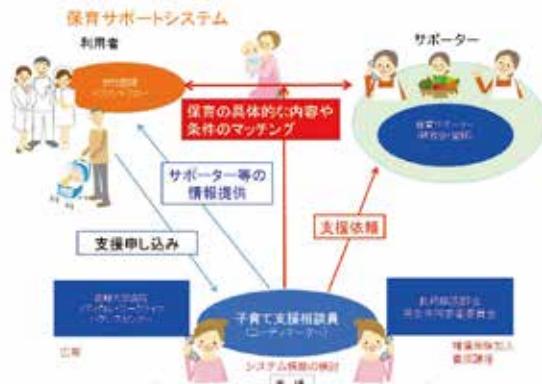
1) 保育サポートシステム

長崎県医師会保育サポートシステムとは?

長崎県からの受託事業「長崎県地域医療再生臨時特例基金事業補助金」の一環として、長崎県医師会と長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターが共同で「長崎県医師会保育サポートシステム」を設置し、運営するものです。

育児支援を必要とする子育て医師に対して、コーディネーターがそれぞれのニーズに沿った保育センターの情報提供・紹介を行うことを目的としています。迅速かつ細かい要望に対応するために、長崎県医師会と長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターにコーディネーターを配置。本事業により、子育て中の医師が就労継続でき、少しでも医師不足の解消にもつながることで、長崎県の医療に貢献できると期待しています。

まずは、モデルケースとして平成26年度は長崎大学病院の医師を対象にしました。



実際の利用ケース

- ①学校から習い事に行くまでの時間をサポーターさん宅でお預かり
 - ②保育園から習い事までの付き添い、習い事から保護者が帰宅するまでの保育
 - ③産後の回復期に上のお子さんの保育園のお迎え
 - ④手術などで帰りが遅くなる日の保育園のお迎え～帰宅するまでの保育
- など、利用者とサポーターが相互に相談しながら、各家庭のニーズに対応しています。

利用者の声

- ・復職するにあたって、色々と不安もありましたが、いざという時に頼れる方がいると思うと、とても心強いです。
- ・子どもにやりたことを諦めさせずに済みました。
- ・「困ったときは遠慮せずに自分の親代わりだと思ってすぐに連絡してちょうだいね。」と言われました。
- ・サポーターさんが近くにいてくださることが私の気持の支えとなっています。

サポーターの声

- ・子育て中の先生にとって、辛いところに手が届くような存在になれたらと思っております。
- ・お子さんもパパもママも可愛い!是非、力になりたい!
- ・ご家族の方とお子さんの様子を話したりして、毎回楽しくサポートさせていただいております。
- ・以前、父が入院していたころ大学病院の先生には大変お世話になりましたので、恩返しがしたいと思っています。

保育サポーター研修会

●保育サポーター研修会

サポーター登録の要件として、所定の研修会を受講することにしています。第1回第2回は、長崎市子育て支援課のご協力で、ファミリー・サポート・センターながさきの提供会員である「まかせて会員」「どっちも会員」(以下「ファミサポ会員」という)全員へ研修会のご案内を発送いたしました。

第1回 2014年5月10日(土)15:20～17:30 参加83名(内ファミサポ会員64名)

第2回 2014年9月25日(木)14:30～17:00 参加83名(内ファミサポ会員16名)

第3回 2014年2月 5日(木)14:30～17:00 参加34名

場 所：長崎県医師会館

(1)保育サポートシステム概要

長崎県医師会常任理事 上戸 穂高先生

(2)「子どもの心の発達」

長崎大学臨床心理士・学校心理士 富永 ちはる先生

(3)「子どもの病気とホームケア」

出口小児科医院 院長 出口 貴美子先生



●保育サポータースキルアップ研修会

サポーターには、年1回のスキルアップ研修会を受講していただくことにしています。

日 時：2015年1月22日(木)13:00～15:00

場 所：長崎県医師会館

講 師：日本赤十字社長崎県支部 指導員

対 象：サポーター登録者全員 参加30名

「子どもの看病と手当ての仕方(一次救命処置を含む)」

(1)子どもの事故や病気の予防

(2)起こりやすい症状と手当について

(3)一次救命処置



●保育サポータースキルアップ研修会 補講

日 時：2015年3月12日(木)14:00～16:00

場 所：長崎県医師会館

講 師：長崎市消防局警防課

対 象：サポーター登録者で2015年1月22日受講できなかった方



●利用者募集

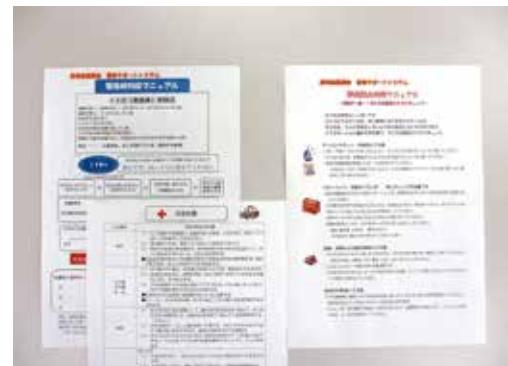
長崎大学病院「保育サポートシステム」説明会 開催
日 時:1回目 2014年5月15日(木)16:30~17:00
2回目 2014年5月21日(水)17:00~17:30
3回目 2014年5月22日(木)17:00~17:30
場 所:長崎大学病院 放射線部カンファレンス室
対 象:長崎大学病院に勤務している子育て中の医師
(常勤、非常勤、修練医、男女問いません)
参加医師数 16名(男性3名、女性13名)



2014年9月と11月、2015年2月にメールやプリントで「利用者募集のお知らせ」を配布しました。各医局のワークライフバランス推進員から、子育て中の医師へお渡ししていただきました。

●安心・安全のサポート活動を行うために

お子さんの安全が第一なので、「緊急時対応マニュアル」と「事故防止対策マニュアル」を作成し、保育活動を始める
サポーターへ配布しています。



●リハーサル

保育活動の前に、サポーターさんと利用者・お子さんとの顔合わせや短期間の保育(慣らし保育)、また、
必要に応じて保育園への挨拶、場所確認のことを「リハーサル」と呼んでいます。平成26年11月から原則として、必ず行うことになりました。1人のサポーターに対して1回1000円の報酬を、当システムからお支払いします。利用者からも、あまり気を使わずにリハーサルができると好評です。

●病児保育モニター利用券

保育サポートシステムの病児保育を一度体験してもらい、いただいたご感想やご意見を今後の活動に役立てようと、平成26年11月に病児保育モニター利用券を発行しました。

適用期間は、平成26年12月1日～平成27年2月28日。

- 保育サポートシステム通信を発行(年2回発行予定)

長崎県医師会保育サポートシステムでは広報活動の一環として、「保育サポートシステム通信」を発行することにしました。当システムの活動報告とサポートーや子育て中の医師にとって、有益な情報を提供し、よりよいシステムにしていくための情報交換の場になればと考えています。

保育サポートシステム通信vol.1(2014年9月発行)

保育サポートシステム通信vol.2(2015年2月発行)



2) イブニングシッター

【イブニングシッター リニューアル再開】

長崎大学病院内で夕方から実施される会議・勉強会等への参加を可能にするために、託児の手配を行います。経験豊富なプロの保育サポーターの方が保育にあたり、お子様の月齢や託児数によって十分な人数を手配しますので、大切なお子様を安心して預けることができます。

平成26年度も平成25年度と同様に無料で実施しています。平成25年度は長崎大学病院および関連病院に所属する、子育て中の医師が対象でしたが、平成26年度は長崎大学病院全職員および関連病院に所属する医師と対象を広げ、多くの子育て中の職員の方にご利用いただいています。

【イブニングシッター利用者状況】

平成25年10月15日～平成26年3月31日現在

平成25年度	実施数(人)
利用者数(延べ)	14
託児数(延べ)	21

平成26年5月9日～平成27年2月28日現在

平成26年度	実施数(人)
利用者数(延べ)	31
託児数(延べ)	46

【イブニングシッター利用者内訳】

平成26年2月28日現在

	人数(人)
医 師	8
大 学 生	4
看 護 師	2
院外(医師)	2
合 計	16

あなたも利用してみませんか？ リニューアル

イブニングシッター サービス

★★その他のような面でもご利用いただけます★★

【対象者】

【実施期間】

【託児場所】

【料金】

【サービス利用の流れ】

【申し込み・問い合わせ】

【連絡先】



外来棟4F小児科キッズルーム(イブニングシッター託児場所はこちらです)



小学生用勉強机
(この机を利用して宿題をすることもできます)



お昼寝ベッド
(小さいお子様のために簡易ベッドも用意しています)



保育サポーターの方々の工夫された手作りおもちゃ

保育サポーターの方々が年齢に合わせた遊びを準備してくださり、温かい心配りを感じます。おもちゃを手作りされる方も多く、子供たちは工夫されたおもちゃに興味津々。自分達で次々といろいろな遊びを創り出していくます。



参加者の声

昨年度から利用している、4歳児の母です。以前は夕方から始まる勉強会や説明会へ出席する際、24時間保育所などを利用していました。普段と違う環境を嫌い、泣き叫ぶ子供に申し訳ない気持ちをいたきつつ…。そんな中、事業開始のポスターを拝見し申し込みました。初回から泣かず、大変楽しい時間を過ごせました。先生は毎回異なる遊びを準備してくださいます。

今では、「ママのお仕事の保育園は次いつ行ける?」と楽しみにしています。このような素晴らしい事業を無料で提供してくださり、本当に助かっています。悩んでいらっしゃる方は、是非利用されてみてください。

心からお勧めいたします。

私は普段は子連れで研究生活を送っています。しかし講演会や勉強会となると、さすがに月齢の低い子供を連れて行くことができません。私の実家は遠方で、夫も医師であるため、近くに頼りになる人もいませんでした。そこでイブニングシッターなるものを知り、まずは気軽な気持ちで利用させてもらいました。病院内に子供を預けるため移動距離も少なく、担当のシッターさんもベテランで、仲介してくれたメディカル・ワークライフバランスセンターの託児担当の方も柔軟に対応してくださり(おまけに無償)、勉強会に参加できました。おかげで夢や目標、医師としての使命感を持ちながら子育てをすることができます。

長男を出産した時、初めての育児を大切にしたかった私は、丸一年間休職し育児に専念させて頂きました。その後も無理のない勤務形態を医局に配慮して貰い、現在は6歳・4歳のわんぱく男児を抱えて病棟・外来業務にほぼフル復帰しています。

イブニングシッターサービスを利用して夜間の勉強会にも参加出来るようになりました。最近、主人が単身赴任になってしまったのですが、子供の病気や手術で遅くなる時にはセンターを通してシッターさんにサポートして貰っています。育児と仕事の悩みはどんな状況でも尽きることはありません。

それも「当たり前」と受容し、益々充実した日々を送れるようになったなあと感じるこの頃です。

【ある日の託児の様子】



3) マタニティー白衣貸し出し

長崎大学病院内の妊娠中の医療人の方に、マタニティ白衣を貸し出しています。SとMサイズの2種類があり、洗い替えとして2着お渡しします。
ダブル仕立てのコートタイプ白衣で、妊婦初期から臨月まで対応できる「ウエストの調整機能」や、お腹が大きくなても目立たない「デザイン」など、普通の白衣にはない特徴があります。



4) 出産・育児のイロハ

長崎大学病院に勤務するみなさんが、妊娠・出産と育児に関する支援制度を活用して、ワークライフバランスを維持していくよう、冊子「出産・育児のイロハ」を作成しました。

出産・育児という大きなライフイベントにおける、各種制度の基礎知識や、仕事との両立に役立つ情報を紹介していますので、是非活用してください。新しい命の芽生えは、かけがえのないものです。

仕事と育児の両立に、少しでもお役に立てれば嬉しく思います。

【目次】

- ・長崎大学における出産・育児支援制度
- ・妊娠・出産から職場復帰までのタイムスケジュール
- ・産前・産後休暇と育児休業
- ・産休・育休中の主な手当・給付金・保険料
- ・パパの育児参加を支援する制度
- ・長崎大学病院での勤務パターン
- ・長崎大学病院あじさい保育園の紹介
- ・子育て支援情報サイト

※ ご希望の方(長崎大学病院職員限定)は、あじさいプロジェクトホームページのお問い合わせ・お申し込みフォームより、「出産・育児のイロハ資料請求」にチェックを入れ、ご連絡ください。



5) 働くあなたのための介護準備のABC

仕事と介護の両立について気にかかっているけれど、何も情報を持ち合わせていない…という方に贈る冊子です。

介護は、誰もがいつか直面する問題ですが、事前の心構えと準備によって、クリアできることがたくさんあります。「日ごろからの情報収集」「専門家や周囲への相談」「公的サービスや職場の支援制度の活用」「働き方の見直し」などで、仕事と介護の両立は決して困難なものではなくなるはずです。ぜひ皆さんも、負担なく両立が図れるように、この冊子を活用してください。

【主な目次】

- ・実際の介護とは:ケース①「脳卒中→リハビリ→特養」のケース
- ・実際の介護とは:ケース②地元のサービスを使って遠距離介護
- ・介護の可能性を現実的に考える
- ・介護保険の仕組み
- ・いざとなったら使える支援策
- ・介護サービスについて知る
- ・認知症について知る
- ・介護と両立する場合の働き方のイメージ
- ・介護に関する支援制度



※ ご希望の方は、あじさいプロジェクトホームページのお問い合わせ・お申し込みフォームより、「介護準備のABC資料請求」にチェックを入れ、ご連絡ください。

3 長崎県内病院の取り組み

長崎県内の病院で、ワークライフバランス実現に向けた取り組みを紹介しています。

【長崎大学病院の取り組み】

1) 診療科長・中央診療部門長および医局 訪問

各診療科の現状と抱えている問題を把握するために、各医局を訪問しました。
当センターの目的と活動内容をご説明して、様々なご意見もいただきました。

<診療科訪問>

日時	診療科
5/7(水) 14か所 伊東センター長 南副センター長	1 泌尿器科 酒井英樹教授
	2 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 高橋晴雄教授
	3 心臓血管外科 江石清行教授
	4 感染制御教育センター 泉川公一教授
	5 皮膚科・アレルギー科 宇谷厚志教授
	6 第一内科 川上純教授
	7 循環器内科 前村浩二教授
	8 麻酔科 原哲也教授
	9 薬剤部 佐々木均教授
	10 産婦人科 増崎英明教授
	11 がん診療センター 芦澤和人教授
	12 看護部 江藤栄子看護部長
	13 事務部 鳥居時政事務部長
	14 臨床研究センター 福島千鶴准教授
5/9(金) 3か所 伊東センター長 南副センター長	15 消化器内科 中尾一彦教授
	16 整形外科 尾崎誠教授
	17 救命救急センター 田崎修教授
5/13(火) 2か所 南副センター長	18 第二外科 江口晋教授
	19 医療教育開発センター 濱田久之教授

日時	診療科
5/14(水) 6か所 伊東センター長 南副センター長	20 原研内科 宮崎泰司教授
	21 精神科神経科 小澤寛樹教授
	22 総合診療科 大園恵幸教授
	23 医療技術部 黒田昭範医療技術部長
	24 眼科 北岡隆教授
	25 第一外科 永安武教授
	26 放射線科 上谷雅孝教授
	27 検査部 柳原克紀教授
	28 形成外科 平野明喜教授
	29 小児科 森内浩幸教授
5/26(月) 2か所 伊東センター長 南副センター長	30 熟研内科 有吉紅也教授
	31 病理診断科・病理部 福岡順也教授
5/28(水) 1か所 伊東センター長 南副センター長	

・診療科長等挨拶訪問実施期間5月7日～28日(7日間)

・訪問先 31拠点

女性医師の所属人数が各科で異なり(女性医師不在は1診療科のみ)、子育て中の母医師の勤務状況も多様で、問題提起される科もありましたが、どの科も、その科の人事構成にあうような緩和条件で母医師をサポートしていらっしゃることがわかりました。「頑張れ、もっと頑張れ」という励ましのご意見もあり、それを支援するようにと、当センターへの期待の声も聞かれました。いただいたご意見を参考に、来年度も反映しながら活動してまいります。当センターへの要望等を是非お聞かせください。

<医局訪問>

日時	医局	日時	医局
5/27(火) 1か所 南副センター長 吉岡	1 精神科神経科 杉本流先生	6/10(火) 2か所 南副センター長 三宅or吉岡	12 熱研内科 古本朗嗣先生
6/3(火) 7か所 南副センター長 長崎県医療政策課 宗先生 吉岡	2 麻酔科 柴田伊津子先生 3 放射線科 山崎拓也先生 4 第二内科 西野友哉先生 5 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 高野篤先生 6 泌尿器科 望月保志先生 7 脳神経外科 鎌田健作先生 8 循環器内科 深江学芸先生	13 小児科 白川利彦先生	14 消化器内科 田浦直太先生
6/4(水) 2か所 南副センター長 長崎県医療政策課 宗先生 吉岡	9 第二外科 金高賢悟先生 10 第一外科 日高重和先生	6/11(水) 8か所 南副センター長 長崎県医療政策課 宗先生 三宅or吉岡	15 原研内科 今泉芳孝先生 16 皮膚科・アレルギー科 富村沙織先生 17 眼科 築城英子先生 18 産婦人科 長谷川ゆり先生 19 形成外科 吉本浩先生
6/5(木) 1か所 南副センター長 三宅	11 第一内科 安藤 隆雄先生	6/13(金) 1か所 南副センター長 三宅	20 心臓血管外科 谷川和好先生 21 総合診療科 井上圭太先生 22 整形外科 宮田倫明先生

・医局挨拶訪問実施期間5月27日～6月13日(7日間)

・訪問診療科 医科系22診療科

ご対応いただいた医局長の先生22名、女性の医局長が4名いらっしゃいました。医局会の時間については、医局会の実施がない科が3科(メール伝達あり)、不定期1科、夕開始13科、昼開始2科、他のカンファランスと合わせてが3科でした。カンファランス・消毒会・勉強会の回数については、週1回が6科、週2回が12科、週3回が1科、毎日が2科、不明が1科、そのうち土曜日に行っているのは2科(月に1回、毎週)ありました。

終了時刻はおおむね18時半から19時程度、20時までにはどの会もほぼ終了、子育て中の女性医師の参加は自由参加になっているところが多くみられました。子育て中の女性医師の当直免除については、男性医師の割合が多い医局では、8科で医員・スタッフともに免除、7科では該当する女性医師不在、2科で医員免除、スタッフ免除不可(今年度例外的にスタッフも免除が1科)でした。

女性医師数が男性医師数以上となっている医局では、2科で医員・スタッフともに免除不可、2科で医員免除、スタッフ免除不可、1科で子どもが一定年齢に達したら日直から開始という結果でした。

女性医師の当直減免については各医局の医師数、男女比にもよりますが、比較的柔軟に対応していました。女性医師の割合が多くなると、子育て中の女性医師も増えて、減免措置も難しくなってくるようです。母医師には、日直当番から割り当てるという解決策を取り入れた科があり、今後の参考になると思います。

土・日曜日の日直や金曜日の宿直は、連続勤務にならないので、割り当てやすい枠だと思います。

当直の割り振りに苦慮されている医局長の先生には、取り入れていただきたいと思いました。

医局長訪問の結果を受けて、今年度変更があったところは以下のとおりです。

【改善報告】・土曜に開催していたカンファランスを平日に変更した

・子育て女性医師からの希望があれば、当直免除とした(今年は該当者がいないので来年度以降)

・各医局のホームページで、両立のための取り組み紹介が活発に発信されている

これからも、男性・女性に関わらず、すべての医局員の先生が働きやすい医局の体制ができるように、情報を提供していきたいと思います。

引き続きご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

2) ワークライフバランス推進員

各部署の推進員が、ワークライフバランス実現に関する相談窓口、情報発信、企画などの役割を担っています。

【第1回ワークライフバランス推進員 意見交換ランチ会】

日時:平成26年5月30日(金)12:00~13:00

場所:放射線部カンファレンス室(放射線部受付付近)

出席者:9名

列席者:3名

<議題>

- 1、各推進員の自己紹介
- 2、次年度からの開催時間の変更
- 3、イブニングシッター、保育サポートシステム、出産育児および
介護ハンドブックの紹介
- 4、各診療科の「うちの科自慢の働きやすい仕組み・取り組み」

Good Point賞「医局カンファレンス時間を夕方から昼へ変更」



【第2回ワークライフバランス推進員 意見交換ランチ会】

日時:平成26年7月8日(火)12:00~13:10

場所:放射線部カンファレンス室(放射線部受付付近)

出席者:7名

列席者:1名

<議題>

- 1、各推進員の自己紹介
- 2、各医局への情報提供と学生講義へのご協力お礼
- 3、救急部第二当直の当番決定について
- 4、各診療科の「うちの科自慢の働きやすい仕組み・取り組み」

Good Point賞「『主治医グループ制』で負担軽減(サポート体制)ができている」



【第3回ワークライフバランス推進員 意見交換ランチ会】

日時:平成26年9月12日(金)12:00~13:00

場所:放射線部カンファレンス室(新中央診療棟1階)

出席者:4名

列席者:1名

<議題>

- 1、各推進員の自己紹介
- 2、保育サポートシステムについて
- 3、救急部第二当直の当番決定について
- 4、各診療科の「うちの科自慢の働きやすい仕組み・取り組み」
- 5、mWLBセンターHPリニューアルについて
- 6、産休・育休中の女性医師への定期メール便について
- 7、復帰医・パート医の人数について

Good Point賞「医局の中に、ワークライフバランス担当者(3人)を配置した」



【第4回ワークライフバランス推進員 意見交換ランチ会】

日時:平成26年11月5日(水)

報告事項を院内便で配布した

<議題>

- 1、イブニングシッター利用状況
- 2、私たちのワークライフバランス実践術 ホームページ掲載計画中
- 3、ホームページリニューアルに伴うコメント提供と、医局ホームページとのリンク了承のお礼
- 4、復帰予定(第1子出産)が決まつたら、待機児童とならないように注意点お知らせ

各医局のホームページで、両立のための取り組み紹介が活発に実施されています。
今後も推進員のみなさまを通して、各医局との連携を図っていけたらと思っています。

- ・第二内科「女性医師の会」
- ・消化器内科「仕事と生活の両立をめざす先生方へ」
- ・循環器内科「仕事と生活の両立のために(ワークライフバランス)」
- ・第二外科「女性外科医を目指す方へ」
- ・皮膚科「女性皮膚科医を目指す方」
- ・放射線科「当センターバナー設置」
- ・産婦人科「育児しながら頑張っている女医さんたちの声」

昨年度、各診療科に設置していただいたワークライフバランス推進員の先生方と、今年度は、診療科の勤務状況や勤務緩和策の情報交換を行い、はたらきやすい職場つくりをめざす会を設けました。全4回(うち1回は報告書のみ配布)で、半数の診療科の推進員の先生方が集まり、お弁当を食べながら、各医局の情報を、診療科長・医局長の先生とは違った視点から報告いただきました。

それぞれの報告の中から、一番よかつた取り組みを、Good Point賞としてホームページ上で報告いたしました。

毎回、和やかな雰囲気で、生の声をお聞かせいただき、大変参考になりました。他の医局の情報を聞く機会はあまり多くないため、いろいろ感じることもあったと思います。

今後とも、ご協力お願い申し上げます。

ワークライフバランス推進員27名

	診療科	氏名
1	第一内科	阿比留 教生
2	医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター	相良 郁子
3	第二内科	牟田 久美子
4	医療教育開発センター	松島 加代子
5	消化器内科	赤澤 祐子
6	循環器内科	三浦 幸
7	精神神経科	木下 裕久
8	小児科	北村 温子
9	第一外科	松本 恵
10	第二外科	崎村 千香
11	皮膚科	富村 沙織
12	眼科	藤川 亜月茶
13	放射線科	井手口 恵子
14	産婦人科	北島 百合子
15	産婦人科	谷川 輝美
16	麻酔科	稻富 千亞紀
17	熱研内科	神白 麻衣子
18	総合診療科	中道 聖子
19	整形外科	黒木 綾子
20	整形外科	野口 智恵子
21	泌尿器科	鹿子木 桂
22	耳鼻咽喉科	木原 千春
23	脳神経外科	出端 亜由美
24	形成外科	千住 千佳子
25	心臓外科	谷川 和好
26	原研内科	波多 智子
27	病理診断科・病理部	橋迫 美貴子

3) あじさい保育園

「あじさい保育園」は、長崎大学に勤務する職員の仕事と子育ての両立支援を図るため、平成21年に開設されました。小学校就学の始期に達するまでの乳幼児(定員60名)をお預かりしています。毎週水曜日は、24時間保育も行っています。

入園希望の増加に伴い、定員を30名から60名に増員したため、やむを得ず病後児室を平成26年3月に閉鎖しました。

保育園の収容定員は、当該年度の4月1日における年齢が0歳児及び1歳児にあっては30人、2歳児から5歳児までにあっては30人となっています。特に0歳児と1歳児は申し込みが多く、時期によっては待機となる可能性があります。



長崎大学病院 あじさい保育園 利用者職種

平成27年1月1日 現在

部局等	入園者数	内訳	
病院		医師・歯科医師	6
		看護師(助産師)	24
		技師	1
		研究協力員	1
		事務職員	2
		大学院生	0
合計	41人		41人

平成27年1月1日 現在

(収容定員)		利用人数
0歳児及び1歳児	30人	25人
2歳児から5歳児	30人	16人

平成26年度年齢層別利用児童数

クラス	収容定員	現員
0歳	30人	13
1歳		12
2歳		10
3歳		4
4歳		1
5歳		1
合計	60人	41人

妊娠がわかつたら、または復帰計画を立てる際は、様々な子育て支援情報を集めましょう。
メディカル・ワークライフバランスセンターでもお手伝いいたしますので、お気軽にお問い合わせください。

4) ホスピレート

内閣府認証NPO法人ejnetは、「働きやすい病院」評価・認証事業をおこなっています。「ホスピレート」とは女性医療スタッフにとって働きやすい環境を提供するだけではなく、すべての病院職員にとって働きやすい病院として認定される病院に贈られるものです。

長崎大学病院は2011年にホスピレート認証(働きやすい病院)を取得しました。「ホスピレート認証」の取得は全国で第16号であり、大学病院のなかでは2番目の取得です。

県南地区の長崎大学病院に引き続き、県央地区では2013年に長崎医療センター(大村市)、県北地区では2014年に長崎労災病院が取得。長崎県内の「働きやすい病院」の中核を担っています。



長崎大学病院



長崎医療センター



長崎労災病院



Hospirate
認証マーク

5) 男女イキイキ企業表彰

長崎市では、10月1日からの1週間を長崎市男女共同参画推進条例の施行を記念して「長崎市パートナーシップ推進週間」としています。

この推進週間には、男女が互いにパートナーとして認め合い、その人格を尊重し、家庭、職場、学校、地域などにおいて、よりよい関係を形成し、更なる男女共同参画を推進するため各種啓発活動が行われており、毎年「アマランスフェスタ」が開催されています。

今年のアマランスフェスタ2014は、10月4~5日の2日間、2会場(長崎市男女共同参画推進センターアマランスと、メルカつきまち)で開かれ、5日には、長崎大学病院が「男女イキイキ企業」として表彰されました。

男女イキイキ企業表彰は、長崎大学がすでにアマランスフェスタ2011で受賞していましたが、今回は長崎大学病院として、メディカル・ワークライフバランスセンターの活動や取り組み紹介も兼ねてエントリーしました。その結果、見事選ばれ、表彰式では伊東センター長が病院長代理で表彰を受けました。



「男女イキイキ企業」とは?

長崎市では、平成20年度から「パートナーシップ推進週間」に合わせて男女が意欲と能力に応じて仕事と責任を分担し、性別を問わず活躍できる職場づくり、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進、出産や育児に配慮した制度の導入など性別に関わらず、誰もが働きやすい環境づくりを実践している働く人も会社もイキイキとした「男女イキイキ企業」を公募、表彰しています。

2014年度は「長崎大学病院」と「株式会社日本政策金融公庫 長崎支店」が表彰されました。

<受賞ポイント　ここがイキイキ!>

①長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターの設置

平成23年にNPO法人イージェイネットの「働きやすい病院評価・認証事業」認証を大学病院として全国で2番目に取得しており、各診療科にワークライフバランス推進員を配置するなど仕事と生活の両立を支援している。

②女性の経営への参画

病院運営会議に女性が参画しており、女性の意見を経営に反映している。

③休暇取得の促進

医局によって、休暇を取得しやすい工夫をしている。

④保育・託児の実施

保育施設「あじさい保育園」の設置、託児サービス「イブニングシッターサービス」を行っている。



10月9日、増嶋病院長へ報告してきました。

(南副センター長より)

病院長は、昔からワークライフバランスに関心を持たれており、男性の育児休業取得の推進や病児保育の必要性についてご理解と意欲を示してくださいました。大変心強く感じました。

【地域病院の取り組み】

6) 病院インタビュー

第1回 市立大村市民病院(インタビュー:平成26年7月1日)

—柔軟な勤務体制で働きやすい病院づくりを目指す—

●健康管理センター科長として活躍されている、柴田由可医師にお話を聞きました



Q.どのような勤務形態で働いていらっしゃいますか。

常勤で健診業務に当たっており、当直はありません。非常勤を1年ほどして、常勤になって約10年になります。もともとは循環器内科が専門で、時間外勤務が非常に多い職場にいました。子どもがいて、時間外の対応が難しくなり、健診部門を担当するようになりましたが、家事と両立させるためには、働きやすい環境だと思っています。

Q.他の女性医師へのメッセージはありますか。

家庭や子どもを持っても、仕事を続けるメリットはあると思います。子どもに、仕事をしている女性の姿を見せるのも、親としての務めではないかと考えています。子どもは高校生で、将来の進路を考える時期になりました。働いている親の姿を見ているので、「同じような道を目指したい」と話すのを耳にするようになり、嬉しく思っています。

●ワークライフバランスの取り組みなどについて、谷岡芳人病院長にお話を聞きました

Q.病院全体の女性医師の勤務状況はいかがですか。

7月から常勤で女性医師が入ることになり、常勤の女性医師が4人になります。健診の柴田先生のほか、循環器内科、耳鼻科、放射線科の先生方です。このほか非常勤の女性医師は4人。子育てから復帰した先生も複数います。今のところ、医師の育児休業取得の実績はありませんが、それぞれの状況に応じて、当直を免除したり軽減したりするなどの対応をしています。フレキシブルな勤務形態が実現できているのは、公設民営(地域医療振興協会が大村市と協定を結び、指定管理方式で運営)ならではの利点だと思います。



Q.病院長から、女性医師の皆さんにメッセージはありますか。

医師不足が大きなテーマになっていますが、私たちも、雇用の自由度を上げて人材確保に努めています。ライフスタイルに合った勤務形態が可能なので、再び医療現場に戻ってきててくれる女性医師がいないか、接触の機会を探っているところです。他の病院でも、勤務条件の合うところを探してアプローチしてもらえれば、大抵の要望には応じてくれるのではないかでしょうか。

●看護師の勤務環境などについて、西邦子副院長兼看護部長にお話を聞きました



Q.看護部での両立支援の状況はいかがですか。

地域医療振興協会に運営が変わってからは、体制も充実してきました。看護師の離職率も、全国平均より低い水準に改善されています。育児休業の取得もほぼ100%で、仕事も育児も頑張ってくれている職員が多くいます。平均年齢は約38歳で、育児休業者が常時10人ほどいますが、約1年の休業後は元気に復帰しています。院内保育園の定員は35人で、現在13人のお子さんが通っています。夜間保育は月1回実施していますが、家族のサポートで夜勤に当たる看護師も多いですね。勤務時間については、お子さんが3歳までは6~7時間勤務に短縮でき、夜勤も免除できる措置があります。

●人材の現況や勤務環境等について、大村重雄事務部長にお話を聞きました

Q.事務のお立場から、医師の人材確保については、どのようにお考えですか。

ここ数年の医師数は、大学医局からの派遣が厳しくなっており、全体として減少傾向にあります。ワークライフバランスを向上し、女性医師にも働きやすい環境を整えて、人材の確保に臨みたいと考えています。女性医師は、非常勤も合わせると増える傾向にあります。当病院は空港やインター、新幹線も近く、近い将来新幹線も開通予定で、交通の便が非常に良いところです。医局でも意識し合って協力できる体制が整っていますので、ぜひ多くの先生方に来ていただきたいと思っています。



第2回 長崎労災病院(インタビュー:平成26年9月2日)

—ホスピレート(働きやすい病院評価)の認証を受け、充実した職場環境は折り紙つき—



- リハビリテーション科で活躍する女性医師、田中奈津美先生にお話を聞きました
- Q.現在の就労形態や、長崎労災病院で働かれての感想をお聞かせください。

常勤扱いの短時間勤務です。今年8月末までは、定時の朝8時15分から始まって、15時30分までの勤務でした。この9月から16時までに延ばしています。もともとは整形外科医。平成14年卒で、12年目になります。現在はリハビリテーション科の仕事に加えて、整形外科に関しても、臨床の仕事に携わらせてもらっています。手術・執刀をしていて、患者さんも持たせてもらっています。子どもは今年10月で3歳になりますが、今は院内保育所に預けています。生後4ヶ月の時、非常勤で仕事に復帰しました。当初は月水金の午前中勤務。生後半年の時に、常勤扱いで8時15分～15時30分までの勤務になりました。待機や当直は免除してもらっているので、大変助かっています。

●病院全体のワークライフバランス推進状況について、福崎誠院長にお話を聞きました

- Q.現在、ワークライフバランスに関して病院で取り組んでいることや、介護育児支援の状況はいかがですか。



介護支援については、今のところあまり実績がないのですが、育児支援に関しては、ワークライフバランス施策の一環で、時間短縮制度などを通じて積極的に支援しているところです。ホスピレート(働きやすい病院評価)審査を受けたのも、地方の急性期病院の医師が減少している中で、女性医師の皆さんになるべく常勤に近い形で働いてもらいたいという思いがあったからです。時間短縮で当直時間等を免除しながら、常勤に近い形でキャリアを継続してもらえればと考えています。



- 3人のお子さんを育てている麻酔科の医師、後藤志乃先生にお話を聞きました

- Q.労災病院での勤務は、他の病院と比べていかがですか。

今までの病院では、週4回勤務という形が多かったのですが、週5回勤務に慣れてしまえば、それでも別に構わなくなりました。週あたりの勤務日数が短縮されるより、帰る時間が早い方が助かりますね。例えば週4回で8時半～17時の勤務より、労災病院のように週5回で9時～15時あるいは16時のようにできるのであれば、そちらの方がいいですね。

●看護師のワークライフバランスについて、相田由紀看護部長にお話を聞きました

- Q.看護師さんは夜勤があるから、どうしても大変ですね。



復職前によく話をすると、「自分のキャリアのことも考えれば、夜勤も少しあはしたいけれど、月8日まではできない」という人もいるわけです。お互いの約束の範囲内で工夫して、少し負担を軽減するなど、100%とまではいきませんが、話をしながら可能な限り、夜勤に入ってもらうようにしています。



- ワークライフバランスの取り組みの効果などについて、西川静男事務局長にお話を聞きました

- Q.病院全体での育児休業や介護休業の取得状況はいかがですか。

対象者はほとんど取得して復職しています。年度によって、ばらつきがありますが、ほとんどの人が取得するので、年々増える傾向にはあります。その分、人員の手当てをしないといけないので、大変な面はあります。

第3回 濟生会長崎病院(インタビュー:平成26年11月18日)

—ワークライフバランス管理職のリーダーシップで、長崎県下一働きやすい病院を目指す—

●仕事と子育ての両立などについて、総合診療科で活躍中の女性医師 坂本藍先生にお話を聞きました



Q.済生会には、ご自身で入職されたのですか。

そうですね。皮膚科の医局を離れ、こちらに就職して現在で4年目になります。もともと関心のあった内科に入りました。現在は総合診療科にいて、最初は上司の先生に見てもらいながらスタートしました。今は常勤で、ベッドを持っています。8:30から17:15までの勤務で、当直は免除してもらっています。土日は、患者さんの状態に応じて出勤する場合もあります。

Q.復職を考えている人へ、メッセージをお願いします。

育児などの両立が大変だと思いますが、無理せず続けられるような環境を探して、少しづつ頑張っていってもらえたたらと思います。どうしても無理してしまうと、続けられなくなってしまいますので。

●坂本先生の上司で、副院長兼内科主任部長の芦澤潔人先生にお話を聞きました



Q.坂本先生の仕事と生活の両立に当たって、配慮されていることはどんなことですか。

育児休業から坂本先生が戻ってきて安心しましたし、すぐに戦力になってくれて助かっています。月火木金の勤務で、水曜日いないということがあるので、できれば週初めの月曜日に、たとえば、土日に入院して1~2日程度で帰られる入院患者さんを、担当に充てるようにするなど、多少の工夫はしています。週末も出てきてやってくれているので、金曜日入院の患者さんを完全に外すということはしていませんが、ちょっと少なめにするなどの配慮はしています。

●病院のワークライフバランスに対する基本的な考え方などについて、澄川耕二院長にお話を聞きました



Q.両立支援で取り組んでいらっしゃることは、どんなことですか。

まずは男女雇用機会均等法や労働基準法などの法律に対するコンプライアンスを重視し、何か要望があれば、100%満たすよう努めています。仕事と育児・介護を両立する際に必要なのは次の3つです。1つ目は病院の風土や意識の改善です。制度を利用しやすい、働きやすい風土というのが基本にないといけません。2つ目はフレックスタイムなどで労働時間を柔軟にするとともに、労働条件を明確にしたうえで、要望に応じた条件で働いてもらうことです。同時に、急変時にカバーできる体制を常に持っておかないと、実際にはうまく回らず、絵に描いた餅になってしまいます。現在働いている女性医師は、子どもさんが急に熱を出しても、周囲でカバーできる体制にあります。3つ目は院内保育所の整備です。当院では24時間保育が可能です。あとは、病児保育がこれからの課題ですね。

Q.ワークライフバランスを整えることで、経営戦略としての効果を感じておられますか。女性医師が増えていることについてはどうお考えですか。

今は女性医師が4割に達していく時代。女性医師の力をいかに活用するかというのが、病院にとっては医師確保の観点から非常に重要なテーマになっています。完全な形でしか働けないという病院は、生き残ることはできない、ということです。働ける条件をきちんと作っていて、それぞれの医師に合った形で力を發揮してもらう。そのための体制を作っているわけです。これは経営にプラスになるだけでなく、病院を運営していく上で不可欠な考え方になっていると思います。



●看護部での取り組みについて、浦川智恵美看護部長にお話を聞きました

Q.看護部として取り組まれていることはどんなことですか。

看護部としてもワークライフバランスは重視しています。24時間保育と、短時間正職員制度が主なものです。短時間正職員は育児支援が7人、介護支援が3人、合計10人います。あと夜勤免除の人もいて、看護師の1割以上が育児・介護に関する何らかの支援を受けています。

7) 地域就労支援病院

長崎県下地域病院の就労支援情報を掲載しております。就労希望の診療科や両立に配慮した職場環境を地域毎に検索できます。

【検索画面】

診療科	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 形成外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> 眼科 <input type="checkbox"/> 泌尿器科 <input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> リハビリテーション科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 精神科 <input type="checkbox"/> 検診 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 全科対応可能
仕事と生活の両立に配慮した職場環境	<input type="checkbox"/> 時間短縮勤務制【正規職員】 <input type="checkbox"/> パートタイム制 <input type="checkbox"/> フレックスタイム制 <input type="checkbox"/> 家庭の事情等による急な勤務変更へのバックアップ体制 <input type="checkbox"/> 当直免除 <input type="checkbox"/> ベビーシッター費用補助 <input type="checkbox"/> 院内保育園 <input type="checkbox"/> 提携【院外保育園】 <input type="checkbox"/> 病児保育 <input type="checkbox"/> 育児休業・介護休業等、長期休暇取得後の現場復帰 <input type="checkbox"/> 育児休業・介護休業中の給与を保障 <input type="checkbox"/> その他
フリー ワード	<input type="text"/>
<input type="button" value="検索"/>	

【登録病院一覧】

長崎市

長崎大学病院
済生会長崎病院
掖済会長崎病院
三菱病院
長崎みなとメディカルセンター市民病院
高原中央病院
十善会病院
昭和会病院
上戸町病院
長崎あじさい病院
和仁会病院
日見中央病院
田上病院
長崎記念病院
長崎友愛病院
三和中央病院
小江原中央病院
日浦病院
大石共立病院
琴海病院
田川診療所
虹が丘病院
長崎原爆病院
三原台病院
聖フランシスコ病院
長崎みどり病院

佐世保市

長崎労災病院
千住病院
佐世保市立総合病院
佐世保共済病院
佐世保中央病院
天神病院
佐世保北病院
三川内病院
北松中央病院

島原市

高城病院
八尾病院
島原マタニティ病院
柴田長庚堂病院
長崎県島原病院

諫早市

諫早記念病院
宮崎病院
長崎県立こども医療福祉センター
諫早総合病院
小鳥居諫早病院
諫早療育センター
みさかえの園あゆみの家
長崎原爆諫早病院

大村市

長崎医療センター
大村共立病院
市立大村市民病院

平戸市

青洲会病院
北川病院

松浦市

菊地病院

対馬市

対馬いづはら病院

五島市

郡家病院
五島中央病院

西海市

長崎セント・ノーヴァ病院
真珠園療養所

雲仙市

公立新小浜病院

安藤病院

南島原市

泉川病院

西彼杵郡

長崎百合野病院
長崎北病院
女の都病院

東彼杵郡

長崎川棚医療センター
鈴木病院

南松浦郡

上五島病院

平成26年度の新規登録病院は、長崎労災病院、大石共立病院、市立大村市民病院、泉川病院、長崎百合野病院、昭和会病院、三川内病院の7病院で、登録総数は、県下155病院の内、68病院となっています。



長崎労災病院



大石共立病院



市立大村市民病院



泉川病院



長崎百合野病院



三川内病院



昭和会病院

地域病院専用
登録フォーム

施設名	<input type="text"/>
所在地番	<input type="text"/>
郵便番号(最寄駅)	<input type="text"/>
面積面積	<input type="text"/>
日付	<input type="text"/>
ご担当者名	<input type="text"/>
ご担当部署	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>
FAX番号	<input type="text"/>
メールアドレスと担当者名	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 不動産可期	
<input type="checkbox"/> 対応可能診療科別別室料(※搬出運送料)	
<input type="checkbox"/> 内科	
<input type="checkbox"/> 外科	
<input type="checkbox"/> 産婦科	
<input type="checkbox"/> 循環器科	
<input type="checkbox"/> 神経精神科	
<input type="checkbox"/> 小児科	
<input type="checkbox"/> 歯科	

登録がお済みでない病院は、あじさいプロジェクト
ホームページの地域病院専用登録フォームよりご登
録ください。情報の更新につきましても、隨時ご連絡
をお待ちしております。

8) 私たちのワークライフバランス実践術

ワークライフバランスを実践している医師など医療人のみなさんへ、両立のコツやキャリアについてインタビューしています。

【私たちのワークライフバランス実践術No.1】

平成26年12月インタビュー

長崎大学病院 消化器内科(修練医) 桑原愛先生
医療職のご主人と11ヶ月のお子さん



『産後2ヶ月で修練医としてスタート!』

Q.現在の「ワーク」と「ライフ」のバランスは?

A.どちらも、いっぱい、いっぱいです。

Q.論文を読む時間、勉強する時間は?

A.勤務時間中はゆっくり勉強する時間はないので、子どもが寝た後の時間になります。
毎日はできないけれど、勉強しています。

Q.育児・家事の時間短縮のコツ・おすすめしたいことは?

A.離乳食は週末に作って製氷機に入れて小分けして、ジップロックに保存しておくと便利です。ネットスーパーも利用しています。夫の協力は第一で、感謝の気持ちを伝えています。



Q.子育てから学んだことは?

A.親の気持ちがわかり、自分の親への感謝の気持ちが湧いたことです。

Q.ピンチだったことは?

A.夫が夜勤で不在の日に、子どもが嘔吐して、その後片付けを1人したこと。
お布団をお風呂場で踏み洗いして、洗濯機を4回まわして…大変でした。

Q.今後の人生設計は?

A.「ワーク」のほうは、認定医は来年以降、大学院は数年後に、医局のスケジュールで検討する予定です。「ライフ」では、子どもは2人欲しいです。しばらくしてからですね。

Q.ロールモデルとしている先生はどなたですか?

A.同じ医局の先輩の女性医師で、子供を育てながら消化器内科医として働いている、M先生やN先生です。ワークライフバランス推進員でもある赤澤先生から紹介してもらい、ロールモデルにしています。

Q.両立応援のメッセージをお願いします。

A.両立てきているのかどうかわかりませんが、支えてくれている方々に感謝しています。
特に、消化器内科教授の中尾先生のおかげだと、本当に感謝しています。消化器内科は、学生の頃から興味があるので、やりたい専門分野のスタートはしっかり経験することが大事だと思い、産後すぐでしたが、復帰しました。仕事ができるありがたさを感じています。また疲れて帰宅しても、子どもといふるとエネルギーをもらえます。

1日のスケジュール



【私たちのワークライフバランス実践術No.2】

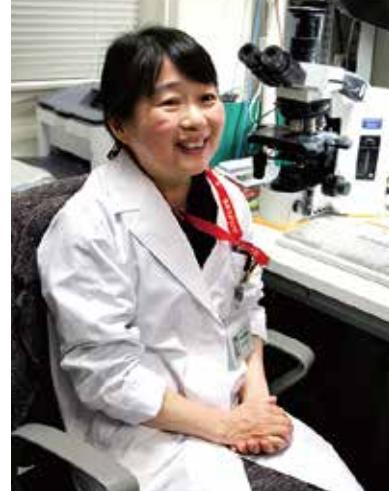
平成27年1月インタビュー

長崎大学病院 病理診断科(准教授) 安倍邦子先生
研究職のご主人と成人した双子の息子さん

『病理医の双子育児体験記』

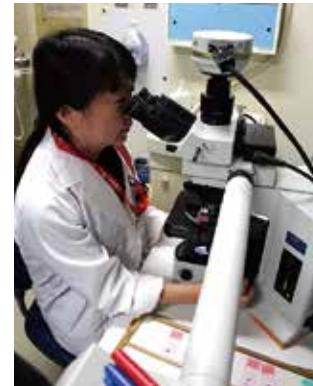
Q.現在の「ワーク」と「ライフ」のバランスは?

A.現在の時間配分は、ワーク>ライフ。夫と長男は他県に在住、次男とは同居していますが、夕食はほぼ別です。子どもが中学・高校の頃は、毎朝お弁当を作るのが私の一番の接点でした。しっかり面倒は見られないけれど、気にはかけているよという姿勢を見せたかったので…。夕食の方は、私が週3日位、朝から煮込み料理などを作って準備しておき、他の3日は祖父母宅で食べてもらっていました。



Q.お子さんは双子ですが、産前産後はどのような状況でしたか?

A.双子の妊娠の場合、産休が前倒しになることを知らず、32週まで勤務していました。その後安静入院となり、34週で出産しました。産後8週で職場に戻ったのですが、解剖は24時間体制。実家のサポートを得て、子育てしながら夜の解剖もしていました。両親がずっと子ども達の面倒を見ると言ってくれましたが、しばらく経って(生後6ヶ月)から保育園に預けることにしました。結果的に、保育園に預けて良かったと思っています。兄弟2人だけで過ごすより、人間関係を学ぶことができますから。



Q.子育てから学んだことは?

A.自分の思うように物事が進まないので、臨機応変に対応できるよう、自分の予定はきっちり立てず、柔軟性を持たせる術を覚えました。そして、相手の気持ちに沿う形で応じることや、妥協することも学びました。

Q.今後の人生設計は?

A.「ワーク」のほうは、臨床病理をもっと勉強したいと思っています。デジタル病理が始まっているので、その勉強もしないといけません。後輩や学生の指導もていきたいですね。「ライフ」では、孫ができるかどうかわかりませんが、もし世話を頼まれたら、するつもりです。

Q.ロールモデルとしている先生はどなたですか?

A.第2病理学教室の先輩の河合紀生子先生です。河合先生も2児の母なので、いろいろと助言をいただきました。子どもが0歳の時に、喘息様気管支炎で2週間入院となり、もう仕事を辞めようか…と思ったことがありました。河合先生に相談したところ「辞めずにしばらく様子を見てみたら」と言ってくださいました。結局、子どもたちは大病なく成長したので、あの時あきらめて辞めずにいてよかったです。

1日のスケジュール



Q.両立応援のメッセージをお願いします。

A.頑張りすぎないこと。2歩進んで1歩下がる程度のスピードでも、「続けること」が大事です。続けたい意志があれば、周りの方からもサポートしてもらえると思います。

3. 調査・研究

1 平成26年度 医学生におけるワークライフバランス、キャリア意識に関するアンケート

1. 調査の目的

医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ。

2. 対象と方法

実施日：平成26年6月18日

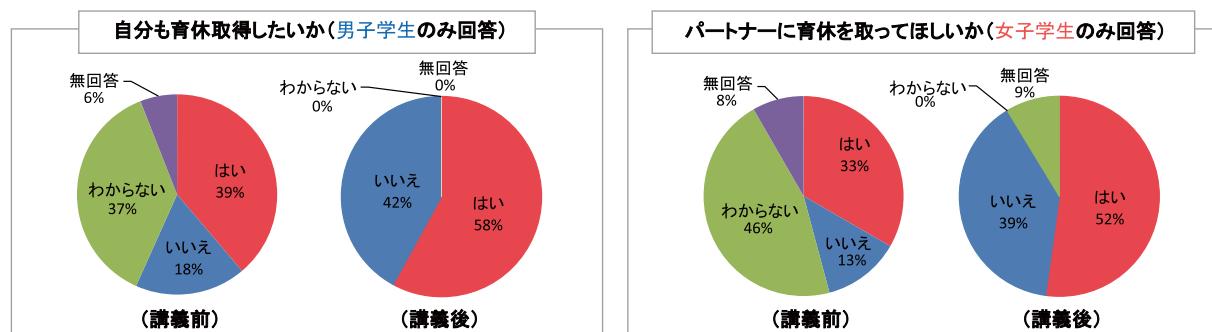
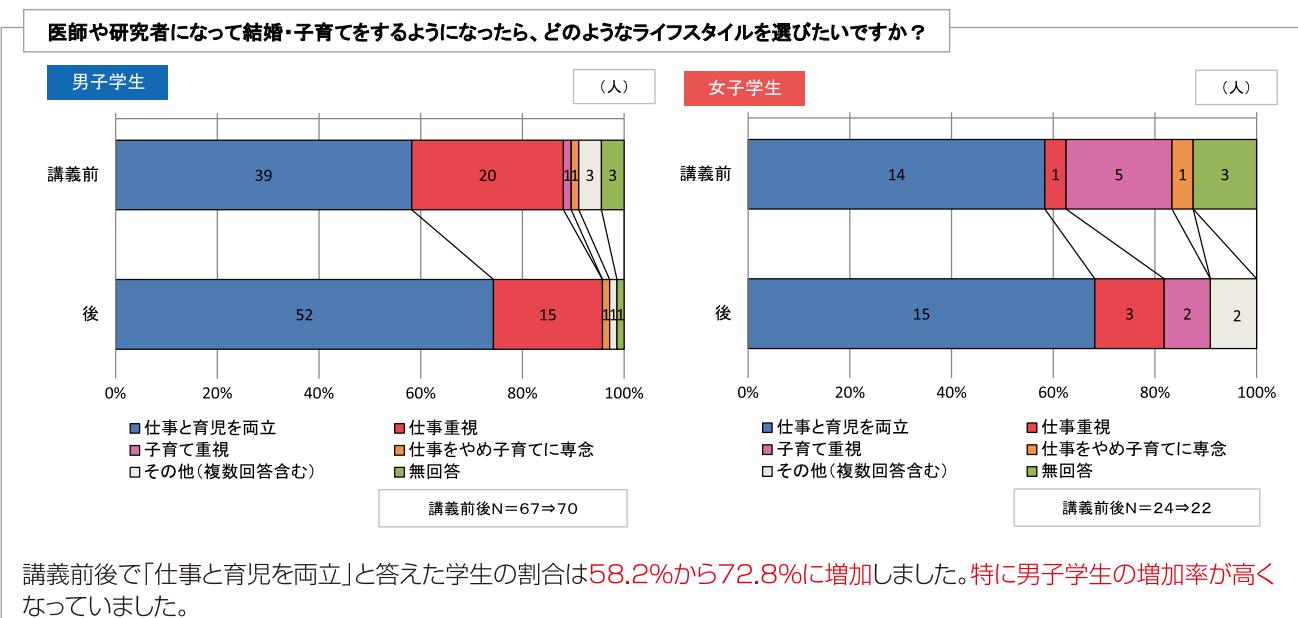
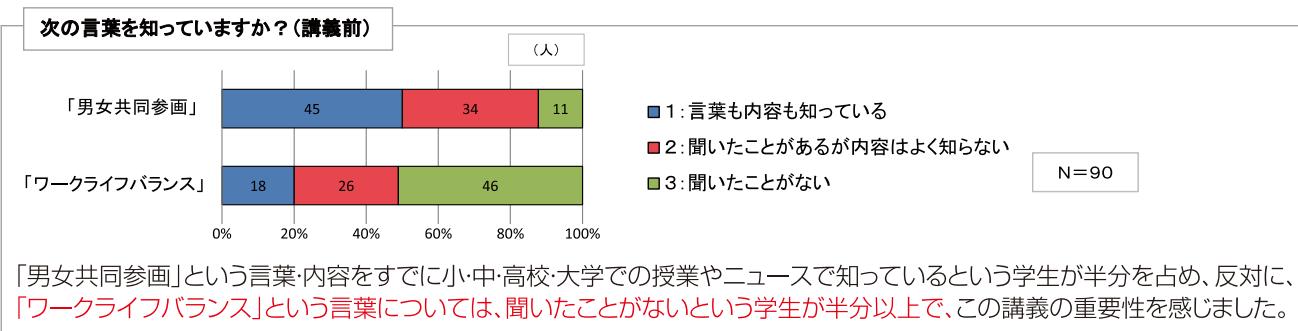
調査対象：医学部3年生（授業前後男子67→70名、女子24→22名）

調査方法：「医と社会」授業1～4時限を使って、ワークライフバランス講義、医師夫婦の両立事例をグループワーク、グループ発表、意見交換、女性医師ロールモデル発表、医師夫婦講演を行う。授業前後でアンケートを施行し、その場で回収した。

配布・回答数（回答率）：授業前配布101名 回収91名（90.1%）

授業後配布103名 回収92名（89.3%）

3. 結果と考察



2 平成26年度 医師のワークライフバランスに関するアンケート調査

1. 調査の目的

病院経営者、管理者としてワークライフバランス施策に対する認識を把握し、長崎県内の育児・介護休業制度や短時間勤務制度利用の実態調査を行う。毎年度継続調査を実施することで、傾向と対策とし、活動に反映させるため。

2. 対象と方法

実施日：平成26年7月14日

調査対象：長崎県下155病院

調査方法：長崎県医師会と連名でアンケート調査用紙を郵送し、同封の返信用封筒で回収

質問内容：開設主体、開設形態、病床規模、医師数（女性医師数）、所在分類、臨床現場復帰に向けた生涯学習として導入しているもの、職場環境の整備について、ワークライフバランスの認識や施策に対しての考え方など

配布・回答数（回答率）：配付155病院 回答101病院（65.2%）

3. 結果と考察

女性医師の割合は、アンケート調査に回答いただいた101病院の医師数および女性医師数から算出したものであり、22%でした。

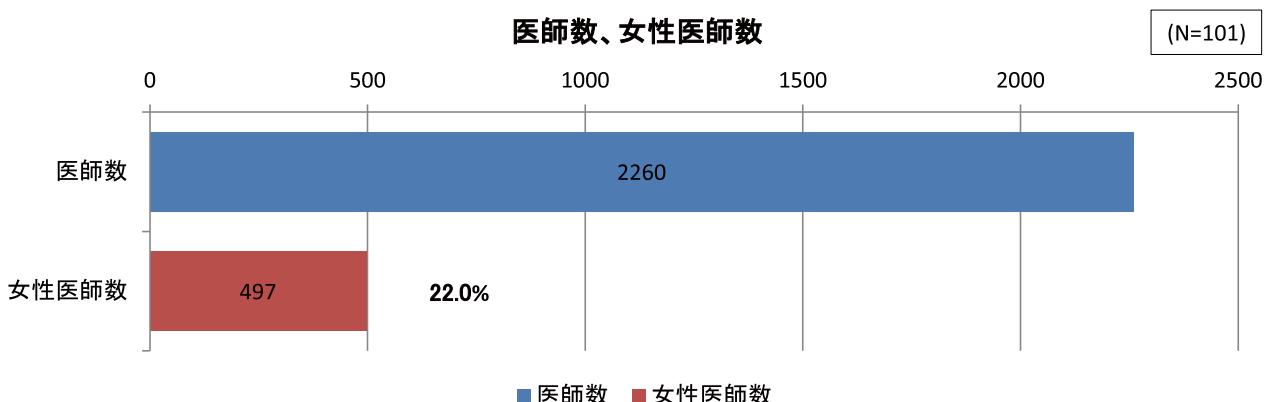
スムーズな臨床現場復帰に向けた生涯学習として導入しているものは、院内カンファランス実施18.9%、学会・研究会参加への補助34%、インターネットアクセス（文献検索）の整備22.8%、図書の整備18%でした。本人が利用するか否かは別として、整備はまだ十分でないと考えられます。

仕事と生活の両立に配慮した職場環境としてすでに導入しているものは、当直の免除あるいは制限71.3%、時間外呼び出しの免除あるいは制限53.5%、短時間勤務制56.4%、医師のバックアップ体制40.6%、育児・介護休業等長期休暇取得後の現職復帰体制60.4%でした。

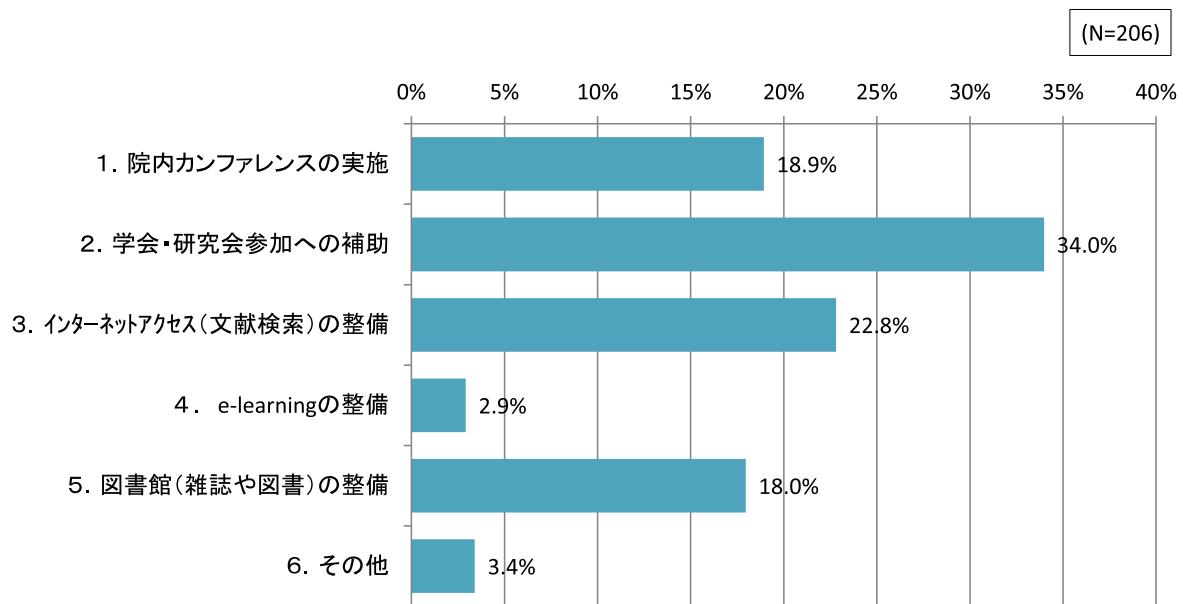
注目点は、昨年度と比較して育児・介護休業等長期休暇取得後の現職復帰体制は、48.8%から60.4%に著しく増加しており、環境は整いつつあることがわかります。

また、「ワークライフバランス」について、内容まで以前から知っていたのは57.4%であり、平成24年調査45.8%、平成25年調査52.4%と年々増加が見られ、そのメリットについてはある程度の理解が深まっていることが推察されました。

アンケート回答へご協力いただきました各病院の管理者の皆様、ありがとうございました。

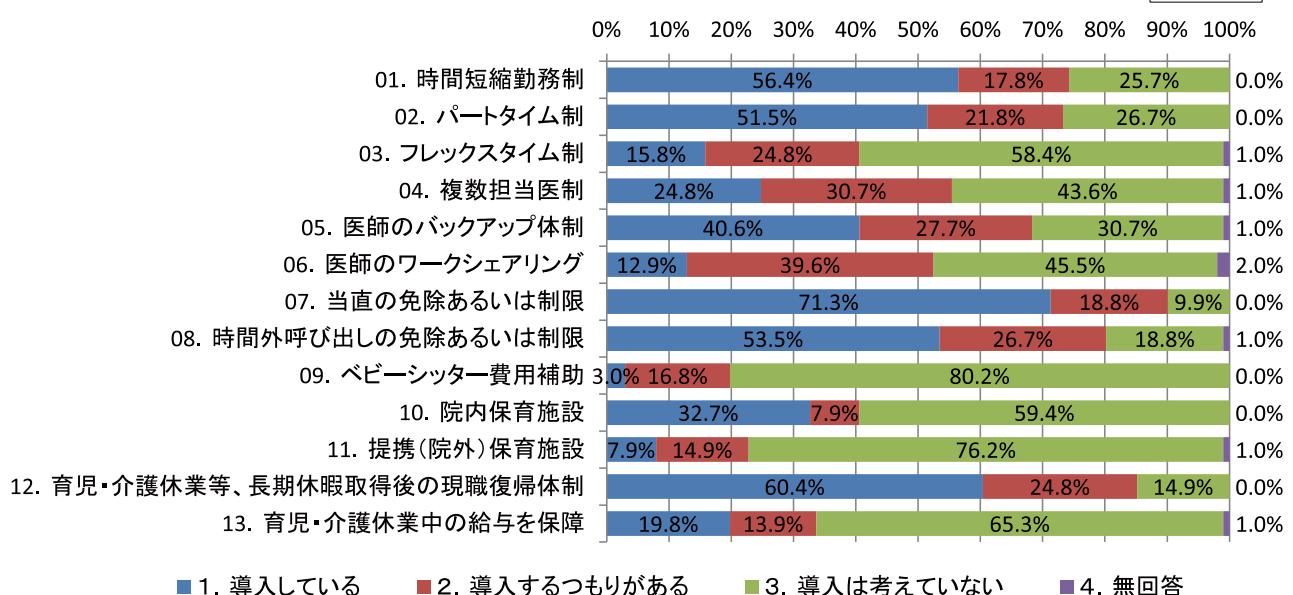


スムーズな臨床現場復帰に向けた生涯学習として導入しているものがありますか？

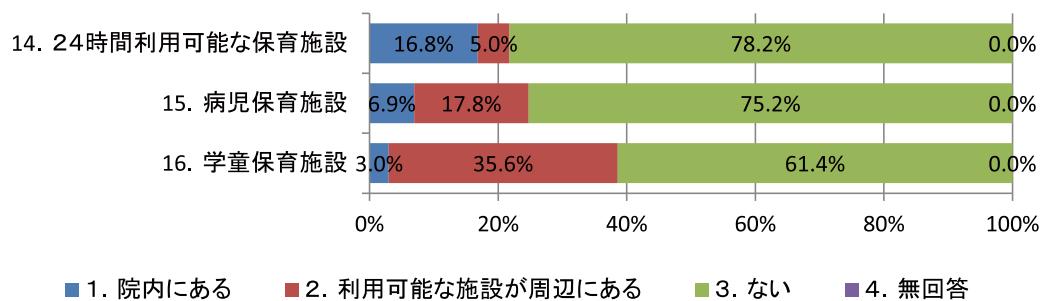


仕事と生活の両立に配慮した職場環境について

(N=101)



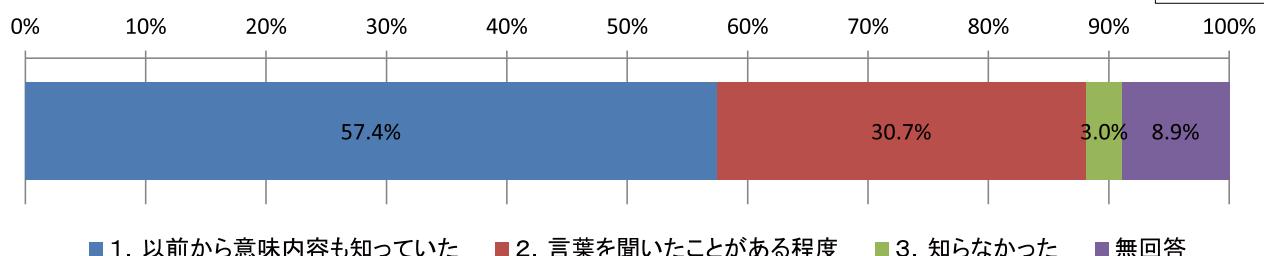
■ 1. 導入している ■ 2. 導入するつもりがある ■ 3. 導入は考えていない ■ 4. 無回答



■ 1. 院内にある ■ 2. 利用可能な施設が周辺にある ■ 3. ない ■ 4. 無回答

「ワークライフバランス」という言葉を、この調査に答える以前からご存知でしたか。

(N=101)

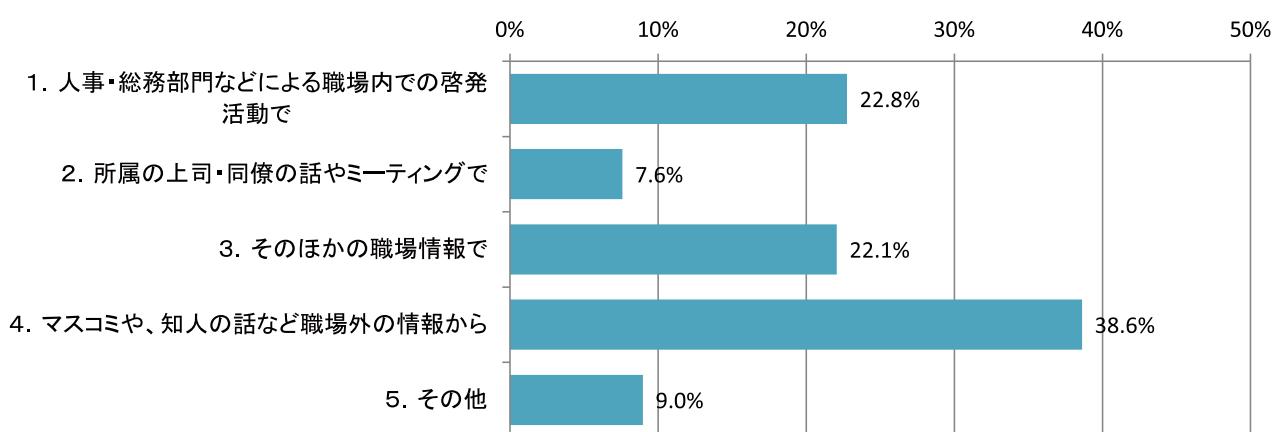


■ 1. 以前から意味内容も知っていた ■ 2. 言葉を聞いたことがある程度 ■ 3. 知らなかった ■ 無回答

「ワークライフバランス」という言葉はどこで知りましたか。

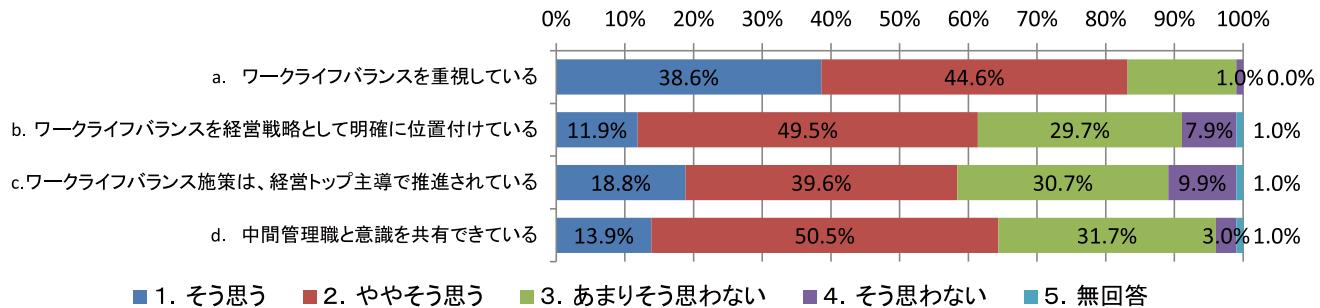
「ワークライフバランス」という言葉を知っていた、もしくは、聞いたことがある程度(88.1%)の中で

(N=145)



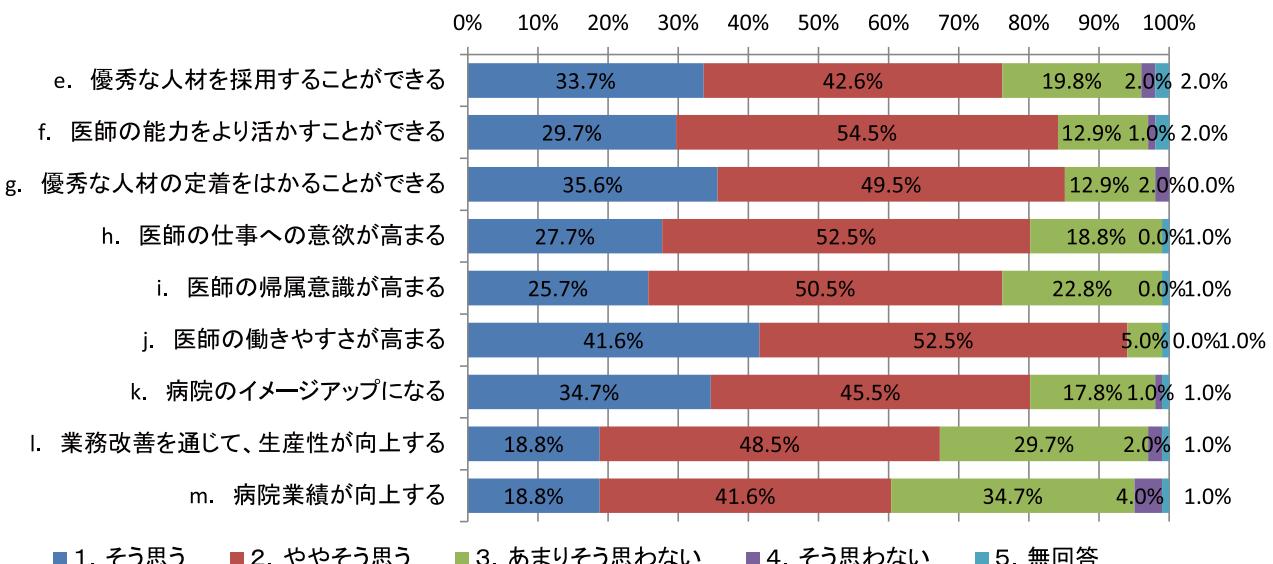
ワークライフバランス施策についてどのようにお考えですか。
<基本的スタンス・姿勢について>

(N=101)



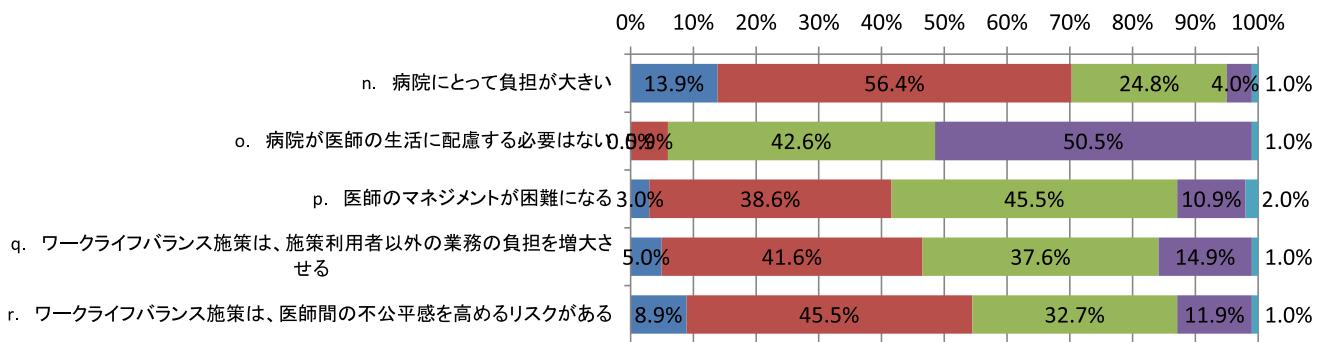
■ 1. そう思う ■ 2. ややそう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない ■ 5. 無回答

<メリットについて>



■ 1. そう思う ■ 2. ややそう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない ■ 5. 無回答

<デメリットについて>



■ 1. そう思う ■ 2. ややそう思う ■ 3. あまりそう思わない ■ 4. そう思わない ■ 5. 無回答

3 女性医師の近隣病児保育施設の利用調査（長崎大学病院）

1. 調査の目的

長崎大学病院に勤務し、子を養育する女性医師が、近隣病児保育施設をどのように利用しているかを把握するため

2. 対象と方法

実施日：平成26年10月16日～10月31日

調査対象：長崎大学病院に勤務し、小学生以下の児を養育中の女性医師

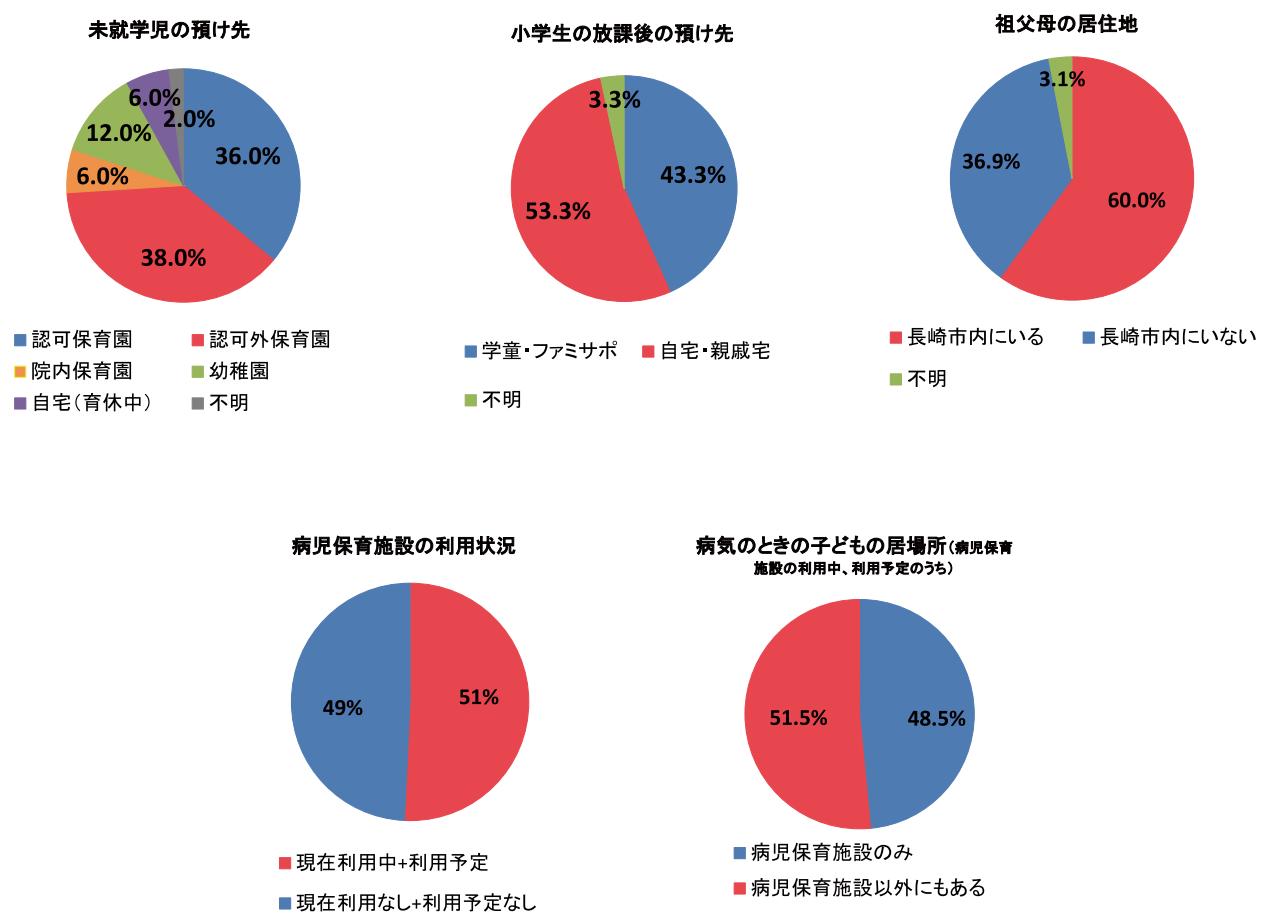
調査方法：アンケート用紙を個別もしくは、各診療科のワークライフバランス推進員から配付してもらい、院内便やメールで回収

質問内容：子どもの数、未就学児の預け先、小学生の放課後の預け先、祖父母の居住先、病児保育施設の利用状況など

配布・回答数(回答率)：65名に配付し、65名(100%)の回答

3. 結果と考察

常勤・非常勤・育児休暇中も含めて、大学病院に小学生以下の子どもを持つ女性医師が65名も勤務していることに驚きました。未就学児の8割は保育園を利用、子どもの病気で通園・通学できない場合、約半数の人が病児保育施設を利用して勤務していることがわかりました。長崎市内に祖父母がいない人は4割。小さいお子さんがいる場合、1児につき年3回程度、病児保育施設を利用しているということでした。



4 潜在女性医師の把握事業

1.目的

女性医師の就労現況確認と潜在化した就労希望のある女性医師に向けての就労支援、およびネットワークづくり

2.潜在女性医師の定義

離職・休職している女性医師

※「離職」の定義：離職とは、休暇・休業（産前／産後休暇や育児休業等を含む）の取得ではなく、「臨床現場への復帰の見込みなく勤務先を退職すること」

<例>医局による人事異動等により勤務先を一旦退職し、次の勤務先へ移るといった場合は含まず。

3.調査期間

平成25年1月～平成27年3月

4.調査の対象と方法

<対象者>長崎大学卒業の女性医師と、長崎大学の医局に属する他大学卒業の女性医師（情報が入手できた場合のみ）、長崎県医師会女性会員、医局情報、地域病院ホームページ、センター業務で関わった女性医師など徐々に展開（計1098名）

<方 法>対象者（計1098名）に『現況報告書』を個別に郵送・配布。返信用封筒を同封し、回収する。回収後の作業で勤務先・勤務状況が確認できなかった場合、可能な限り個別にアプローチし、情報を得る。

5.指標と実績

現況報告書対象者（計1098名）回収結果【平成27年2月現在】

返信あり658名（59.9%）、宛先不明37名（3.4%）、未返信403名（36.7%）

(A) メールアドレス登録

メディカル・ワークライフバランスセンターへメールアドレス登録をする。

メールアド登録者477名+メールアド使用は拒否9名/メールアド判明者数486名

→指標：センターへの登録割合50%

→結果：メールアドレス登録者477名/

現況報告書返信数658名（72.4%）（昨年度から継続調査）

(B) キャリア相談

報告書で離職中・休職中・相談希望のコメントがある場合や、医局からの情報収集で得た復職・転職・キャリアアップの希望のある対象者については、「潜在医師発掘調査－離職・休職者リスト」を作成。希望者にはキャリア相談を実施して、復職等を勧める。

把握できている育児休暇取得中の女性医師には、医局を介して復職の意思・時期の確認を行い、スムーズな復職へつなげている。

現在妊娠中でかつ勤務中の女性医師 3名（7.5%）

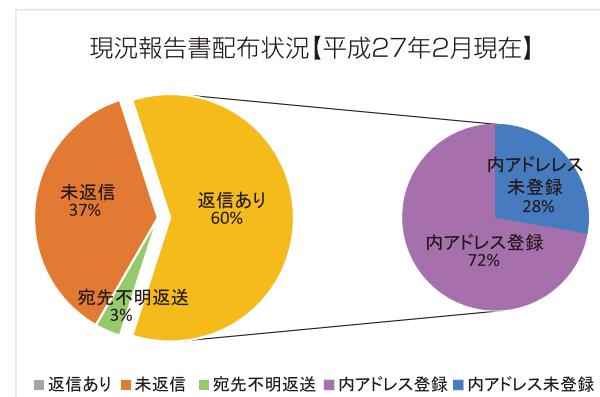
復職済 19名（47.5%）

復帰予定日決定 2名（5.0%）

休職中（産休・育休含） 16名（40.0%）

→結果：40名（昨年度から継続調査）

調査期間は終了するが、今後も継続して情報収集と更新作業を行う。詳しくは、P24女性医師ネットワークづくり参照。



5

燃え尽き症候群克服のためのワークライフバランスからのアクションリサーチ

平成25～27年度文部科学研究費助成事業

「医師の燃え尽き症候群克服のためのワークライフバランスからのアクションリサーチ」

研究責任者:伊東昌子

1.調査の背景及び目的

医療現場では医師を中心に過重労働が大きな問題であり、過重労働は医療従事者の心身の健康問題と関連していることは否めず、さらには医療の質低下への影響も忘れてはならないものである。この調査の目的は、医療従事者の燃え尽き症候群が、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の実現により軽減できるかを検証することである。

2.調査の内容について

燃え尽き度とワークライフバランス実現度に関するアンケート調査を施行し、その後、ワークライフバランスセミナー等で職員の意識改革を促す介入を行い、希望のある職員に対しては、インタビューを施行する。18ヶ月後に、再度介入前と同じ内容のアンケート調査を行う。

なお、セミナーは、「ワークライフバランスセミナー」(DVD視聴セミナー)や、「メディカル・ワークライフバランスセミナー～仕事と介護の両立を考える～」、「ワークライフバランス市民公開講座『幸せを感じる働き方を目指して』」の受講等である。

3.調査の対象と方法

【実施期間】

第1回目 平成25年7月下旬～8月9日

第2回目 平成26年12月上旬～平成26年12月19日

【対象】

長崎大学病院に勤務する職員2,269名(第1回目)、2,354名(第2回目)

(医師、歯科医師、看護師、薬剤師、技術職員、事務職員、その他)

【方法】

返信用封筒を同封したアンケート用紙を全職員に個別に封書で配布し、院内便で回収。

回収したアンケートは、連結可能匿名化(コード対応表を用いる)により匿名化して解析し、

得られたデータは、施錠できるキャビネットに保管する。以上、長崎大学医歯薬総合研究科倫理委員会の承認を得て施行。希望する職員には、自身の燃え尽き度とワークライフバランス実現度について評価結果レポートを返信し報告する。

【配布・回答数(回答率)】

第1回目 2,269名に配布し、1,226名(54.0%)の回答

第2回目 2,354名に配布し、1,289名(54.8%)の回答

4.結果と考察

現在解析進行中。

助成事業期間

平成25年度～平成27年度の3年間の調査研究となる。



4. 広報活動

1 講 演

- 2014.05.17(久留米) **伊東昌子**:医師のワークライフバランスの実現のために。久留米大学医学部放射線医学教室開講記念講演会
- 2014.06.14(札幌) **伊東昌子**:イキイキ働く女性のワークライフバランス。第34回日本骨形態計測学会市民公開講座
- 2014.06.28(福岡) **南貴子**:医師のワークライフバランスをめざして~共に歩むキャリア支援~「組織での取り組み」。第5回男女共同参画委員会セミナー(循環器学会第116回九州地方会)
- 2014.07.12(長崎) **伊東昌子**:これからの勤務医のワークライフバランス。平成26年度長崎県医師会勤務医部会総会
- 2014.07.24(大阪) **伊東昌子**:若手医師の臨床と研究の継続にとって必要なワークライフバランスとは。第32回日本骨代謝学会 シンポジウム
- 2014.09.26(東京) **伊東昌子**:長崎大学の取り組み。(日本医師会)大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会一よりよい男女共同参画を目指してー
- 2014.10.15(長崎) **吉岡和佳子**:社会人生活を豊かにするために ~ワークライフバランスの基礎知識~。長崎大学経済学部「総合経済」講義
- 2014.11.22(秋田) **伊東昌子**:長崎大学における男女共同参画の取り組み。医学生、研修医をサポートする会。秋田県医師会
- 2014.11.26(長崎) **伊東昌子**:ワークライフバランスと管理職の役割。長崎地方裁判所平成26年度管理職研修会
- 2014.12.07(佐賀) **伊東昌子**:テーマ「医師会における女性医師支援活動～医師会と医療機関等との連携について～」。(日本医師会)女性医師支援センター事業九州ブロック別会議
- 2014.12.14(長崎) **伊東昌子**:仕事と生活(介護)の両立について。平成26年度長崎西彼杵地区商工会女性部全体講習会
- 2014.12.14(長崎) **伊東昌子**:ワークライフバランスと働き方改革～幸せを感じる働き方を目指して～。第203回長崎眼科集談会
- 2015.03.07(長崎) **吉岡和佳子**:ワークライフバランスが、シナジーを生む。連合長崎「3.8国際女性デー長崎集会」

2 メディア掲載・出演

・長崎県医師会報 第821号 2014.6掲載

～長崎県医師会が行う「保育サポートシステム」について～

長崎県医師会常任理事 上戸穂高先生が、メディカル・ワークライフバランスセンターとの連携を紹介されました。

・長大病院 ジムレンジャー通信 第54号 2014.6.19掲載

イブニングシッターの取り組みが紹介されました。

・中外製薬 研修医通信 NO.53 2014 Summer掲載

～キラキラ輝く女性医師のために～

長崎大学病院第二外科のワークライフバランス推進員でもある崎村千香先生がメディカル・ワークライフバランスセンターの取り組みを紹介されました。

・九州大学病院 きらめき通信Vol.23 2014.9掲載

メディカル・ワークライフバランスセンターの取り組みが紹介されました。

・NBCラジオ 2014.10.22放送

～毎週水曜日の10時10分頃～「寄川淑子のほわっとモーニング」番組内で放送している

長崎県男女共同参画推進室提供の5分番組「With You ～男と女 笑顔のパートナーシップ～」～伊東昌子センター長が、長崎大学男女共同参画推進センターと長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターの取り組みを紹介しました。

・メディカルレビュー社 WHITE 2014 vol.2/No.2 2014.10.31掲載

～女性の健康にまつわる新語辞典～

ワーク・ライフ・バランスについて、伊東昌子センター長と吉岡和佳子職員が解説しました。

・持田製薬株式会社 産婦人科医のための定期情報誌「OG SCOPE」2015 Vol.5/No.3 2015.2掲載

～女性医師支援のいま～

伊東昌子センター長が、"オール長崎で推進医療人のためのワークライフバランスの実現を"と題してインタビューを受けました。

・ながさき男女共同参画推進センターだより 2015.3掲載

吉岡和佳子職員がワークライフバランスコンサルタントとして、インタビューを受けました。

・長崎新聞 2015.3.8掲載

吉岡和佳子職員の連合長崎「3.8国際女性デー長崎集会」での講演が紹介されました。

【長崎県医師会保育サポートシステム広報関連】



長崎新聞

とつとつて

2014.8.24掲載



2023年春新刊

平賀で中止の医師を市民がサポートするシステムは、全国的にも珍しい制度。すでに取り組んでいる山口県医師会と町田医師会を参考に、さき取りかいサービスを目指して工夫しています。大きな期待感、2人のコーディネーターの存在、コードネーター

は講演会を開催している。そのオーナーの名前をもじり、頭痛とオーナークリニックを名付けていた。システムの経営管理が役立つ。本格では医師陣を専属医さん、オーナーを院長として、院内を専門化するかたちで組織化している。専属医さんは長崎市立病院内に勤務し、利用料を支払うことで、専属医は自分の診療報酬を支取る形で、院長が手数料を支取る形で運営が成る。



育てが苦手を抱いた世代が多く、久しぶりに小さな子どもと接するのが楽しくない声も。中には、自分の子どもで得などとも併せ良くて、家庭でもみで付き合っていきたとも話す人もいるところ。

今後の課題は、登録塾を増やし層を厚めていくこと。それに伴い、活動エリアを広げ、

地城の権限を持つ階級の子弟であることは、既述した解説の如きによれば、地城の領主の質的・量的上と安全につながります。両親のある人は、まずは自分自身に率先して、アマゾン

课时练·一课一练·基础篇

「サボーラー研究会」の名前

2014年3月25日 14時半—179

■ 080-044-11111(直通共通機)

■ 会員登録画面でご登録いただけます。詳しくはホームページ「西海岸温泉の宿泊料金カードシステム」に掲載す

子樂也應該在這裏才好。元氣女人要學會怎麼才好。



で決める。男性医師も利用
ようと、県医師会と長崎大
学病院メディカル・ワーク
ライフバランスセンターは
本年度から、保育サポート
システムの運営を始めた。

医師の出産、育児と仕事と
の両立を助け、医師不足解
消にもつながる狙い。全国
では山口、群馬に続く3例
目、県医師会と同センターは
長崎大学病院をモデル
に、将来的には病院や地域の枠
を広げる方針だ。

このシステムは、医師の
子どもの一時預かりや保育
園への送迎、急病時の世話
などを保育サポート者が手
伝う。具体的に何を支援し
てもうかは、県医師会と
同センターに配属されたコ
ーディネーター（調整役）
と、利用する医師、保育サ
ポートで協議。報酬は1
時間半内を日安に話し合
い、決める。男性医師も利用

子育てドクターを支援

「の研修会



県医師会と長崎大病院 両立手助けへ新システム

5月にあった保育サポート
の研修会
95(844)1111
10

長崎大学病院の医師塚本
美鈴さん(43)は、6歳の息
子が通う水泳教室の送迎を
サポートに頼んでおり
25日午後2時半から、長

崎市茂里町の県医師会館で
保育サポートの研修会が
ある申し込みは5月まで
問い合わせは県医師会!!

サポートは保育士など
の資格がなくても、育児や
児童心理学に関する研修を受
ければ誰でも登録できる。
6月から本格的な運営が始
まり、これまでに8人の医
師と36人のサポートが登
録した。

2010年の県医療統計
によると、県内の医師数は
463人で、女性は62
人。うち出産や子育て世
代に当たる20代、30代が55
%を占める。同センターな
どにおいて、医師は最新の
治療法や薬の知識を獲得す
る必要があり、育児と仕事
を両立できずに職場を離れ
る人もいるという。

長崎大学病院の医師塚本
美鈴さん(43)は、6歳の息
子が通う水泳教室の送迎を
サポートに頼んでおり
25日午後2時半から、長

西日本新聞

2014.9.18掲載

保育サポート募集告知

長崎新聞とつとて広告

2014.9.7掲載

2015.1.18掲載

朝日新聞「長崎情報」

2014.9.11掲載

折込チラシ

(朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・西日本新聞)

2015.1.18折込

西日本新聞

「おしゃせ本舗 NAGASAKI」 2015.1.23掲載

長崎新聞

とつとて「イベント情報」 2015.1.25掲載

長崎県医師会 保育サポートシステム

保育サポート募集

～あなたが長崎の医療を元気にします！～

子育て中の医師を支援する「保育サポート」を募集しています。
ご興味がある方は、研修会にご参加ください。

何があったとき尼
サポートさんはいるというのは
大きな安心感があり、
感謝しています。

育児をしながら働く
先生のお手伝いになれば

長崎大学病院の医師塚本
美鈴さん(43)は、6歳の息
子が通う水泳教室の送迎を
サポートに頼んでおり
25日午後2時半から、長

崎市茂里町の県医師会館で
保育サポートの研修会が
ある申し込みは5月まで
問い合わせは県医師会!!

募集
対象

子育て医師を支えたいと思ってくださるお元気な方。
資格や年齢の制限はありません。(高齢者、保育士の資格をお持ちの方、特に歓迎いたします)。

サポーター研修会 開催!

平成27年2月5日㊏ 14:30~17:00

長崎県医師会館
(長崎市茂里町3番27号)

申込
方法

2月2日春までに、お電話かファックス(氏名、住所、電話番号を明記)で、
長崎県医師会にお申し込みください。

内容

①保育サポートシステム概要
上戸 健吾 氏
②子どもの心の発達
吉川千香子 氏
③子どもの病気とホームケア
出口 真美子 氏

主催
長崎県医師会

お問い合わせ
お問い合わせ窓口
095-844-1111 FAX 095-844-1110
<http://www.nagasaki.med.or.jp/>

5.委員会・ワーキンググループ活動

1 センター運営委員会

日 時:平成26年5月21日(水)14:30~15:15
場 所:旧放射線部カンファレンス室(放射線部受付付近)
出席者:8名

【議 題】

- 1.運営委員の再任、新任紹介
- 2.外部アドバイザーの再任、新任紹介
- 3.組織図の変更点について
- 4.平成26年度計画について
- 5.その他



長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター運営委員名簿（平成26年度）

	所 属	役 職	氏 名
1	長崎大学男女共同参画推進センター メディカル・ワークライフバランスセンター	センター長	伊東 昌子
2	メディカル・ワークライフバランスセンター	副センター長	南 貴子
3	医療教育開発センター	センター長	濱田 久之
4	小児科	助教	本村 秀樹
5	第二外科	講師	藤田 文彦
6	小児歯科室	講師	田上 直美
7	臨床研究センター	副センター長	福島 千鶴
8	薬剤部	部長	佐々木 均
9	看護部	部長	江藤 栄子
10	病院企画課	課長	近藤 政美
11	総務課	課長	浜村 博
12	管理課	課長	濱本 俊彦
記録	総務課	主査	山田 一岳

2 病児保育検討ワーキンググループ

第6回 病児保育WG会議

日 時:平成26年3月6日(木)16:10～17:00

場 所:総務課会議室(フレハブ棟2階)

出席者:森内WGリーダー、中嶋WG副リーダー、下村産科婦人科医員、吉田看護師長、小川第二施設管理班班長、本田総務課課員

欠席者:中富小児科医師、高橋副看護部長

列席者:伊東メディカル・ワークライフバランスセンター長、山田総務課主査

【議 題】

1.「病児保育制度についてのアンケート」回答結果について

2.今後のWGについて

「病児保育設立の要望書」を総務課にて作成し、メール審議又はWGを開催して決定し、病院長(院内保育委員会委員長)宛に提出し、本WGを解散した。今後、病児保育検討委員会を設置し、病児保育施設の具体的な場所、設備を決定し、病院予算を検討していく予定。

3 ホームページ運営委員会

第1回 あじさいプロジェクトホームページ運営委員会

日 時:平成26年5月8日(木)13:00～14:15

場 所:メディカル・ワークライフバランスセンター

出席者9名:伊東センター長、南副センター長、長崎県福祉保健部医療政策課宗課長補佐、株式会社オーエン田中様、センター事務 三宅、中島、吉岡、松尾、藤本

【議題】

1.ホームページ、Facebook、病院イントラのセンター専用ページのアクセス数解析

2.お問い合わせ・お申込みフォーム内に制作した2種冊子の資料請求ボタンを制作依頼

3.ホームページリニューアルを検討、サイト管理者側、閲覧者側の両者にメリットのある運用を模索

第2回 あじさいプロジェクトホームページ運営委員会

日 時:平成26年7月16日(水)13:00～14:20

場 所:メディカル・ワークライフバランスセンター

出席者10名:伊東センター長、南副センター長、長崎県福祉保健部医療政策課宗課長補佐、

株式会社オーエン田中様、病院企画課宮上様、センター事務 三宅、中島、吉岡、松尾、藤本

【議題】

1.ホームページ、Facebook、病院イントラのセンター専用ページのアクセス数解析

2.プロジェクト3本柱の名称検討、サイトマップの整理

3.ホームページリニューアルを検討 具体的な要望出し

4.迷惑メール対策検討

5.長崎県医師会保育サポートシステムのホームページとの連携、記事の掲載、リンクについて検討

第3回 あじさいプロジェクトホームページ運営委員会

日 時:平成27年1月21日(水)9:00～10:20

場 所:メディカル・ワークライフバランスセンター

出席者11名:伊東センター長、南副センター長、長崎県福祉保健部医療政策課宗課長補佐、

株式会社オーエン田中様、長崎県医師会岸川様、センター事務 三宅、中島、吉岡、松尾、有馬、笠戸

【議題】

1.ホームページ、Facebook、病院イントラのセンター専用ページのアクセス数解析

2.ホームページリニューアル完了 改善点報告

3.アクセスの多いページ確認、更新作業数報告(平成25年度66回、平成26年度89回)

4.地域就労支援病院ページの検索機能について改善依頼

5.ホームページの月額サポート費の差額について確認

6.活動報告書制作について

7.第3者参加者よりホームページと報告書の閲覧感想を情報収集

4 平成26年度あじさいプロジェクト活動報告会

日 時：平成27年3月6日(金)17:00～18:00

場 所：長崎大学病院 A会議室

参加者：25名

●外部アドバイザー4名

独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院名誉院長 清野佳紀様

福崎博孝法律事務所弁護士 福崎博孝様

長崎県医師会常任理事瀬戸牧子様（会長蒔本恭様代理出席）

長崎県男女共同参画室室長 吉野ゆき子様

長崎市男女共同参画推進センター所長 植田美奈子様（欠席）

●関連機関・組織代表5名

長崎大学病院副病院長 鮎瀬卓郎様（病院長増崎英明代理出席）

長崎大学病院事務部長 鳥居時政様

長崎大学病院総務課総務主査 山田一岳様

長崎県福祉保健部医療人材対策室室長 村田誠様（欠席）

長崎県福祉保健部医療人材対策室医師確保推進班課長補佐 中山一成様

長崎県福祉保健部医療政策課課長補佐 宗陽子様

●あじさいプロジェクト運営委員11名

●ワークライフバランス推進員5名(22名欠席)

伊東センター長より平成26年度活動報告ならびに平成27年度活動計画について説明、その後外部アドバイザーからの助言、質疑応答が行われた。



6. その他

1 参加・受講

- 2014.07.17(長崎) **松尾郁子・藤本恵**:長崎県男女共同参画推進室「輝くママの陰にナイス・パパあり」
- 2014.08.08(諫早) **南貴子・吉岡和佳子**:長崎県看護協会「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ」公開研修
- 2014.08.22(長崎) **南貴子・三宅コラスタイル由香・中島由美子・吉岡和佳子**:長崎県出前講座「働き方改革が中小企業を救う～ワークライフバランスこそ、生き残り戦略～」
- 2014.08.24(東京) **南貴子**:厚生労働省「女性医師のさらなる活躍を応援するシンポジウム」
- 2014.08.26(長崎) **伊東昌子・南貴子・中島由美子・吉岡和佳子**:長崎大学FD・SDサマーワークショップ「伝わりやすい話し方のコツ」
- 2014.10.05(長崎) **伊東昌子・南貴子・三宅コラスタイル由香・中島由美子**:長崎市男女共同参画推進センター アマランスフェスタ「男女イキイキ企業表彰」川村妙慶氏講演「思いのままから あるがまま～心の荷物、おろしてみませんか～」
- 2014.11.15(長崎) **藤本恵**:長崎県健やかな妊娠・出産サポート事業「子育てって楽しい」
- 2014.11.18(東京) **吉岡和佳子・有馬理音**:中央大学大学院戦略経営研究科「ワーク・ライフ・バランス＆多様性推進・研究プロジェクト」第6回成果報告会
- 2014.12.05(福岡) **南貴子**:WLBコンサルタント養成講座第24期(第1回目)
- 2014.12.12(長崎) **三宅コラスタイル由香・松尾郁子・有馬理音**:電話クレーム対応研修
- 2014.12.22(長崎) **伊東昌子・三宅コラスタイル由香・中島由美子・吉岡和佳子・松尾郁子・藤本恵・有馬理音**:長崎県ながさき女性活躍推進フォーラム
- 2015.01.15(福岡) **伊東昌子・吉岡和佳子**:ワーク・ライフバランスコンサルタント養成講座アドバンス編 「WLBセミナーの講師になる」「働き方の見直しプロジェクトコース」
- 2015.01.16(福岡) **南貴子**:WLBコンサルタント養成講座第24期(第2回目)
- 2015.02.12(福岡) **伊東昌子・吉岡和佳子**:ワーク・ライフバランスコンサルタント養成講座アドバンス編 「介護と仕事の両立セミナーの講師になる」「カエル会議・定例会ファシリテーションコース」
- 2015.02.13(福岡) **南貴子**:WLBコンサルタント養成講座第24期(第3回目)
- 2015.02.14-15(長崎) **吉岡和佳子**:九州地区ワーク・ライフバランスコンサルタント合宿勉強会
- 2015.03.01(東京) **南貴子**:東京女子医科大学「一般内科初診外来-どう学び、どう教えるか」

2 見学来訪

2014.06.18 長崎医療センター 総合診療科 専修医 川原知瑛子先生 学生キャリア講習会に同席
2014.10.27 島根大学医学部 地域医療支援学講座 助教 日高美佐恵先生、

しまね地域医療支援センター事務 石倉明子様

あじさいプロジェクト取り組み紹介

2015.03.17 静岡県 健康福祉部長、同部長代理、他職員の計3名
あじさいプロジェクト取り組み紹介



島根大より
石倉様、日高先生、南副センター長

3 関連機関所属一覧

伊東昌子 センター長

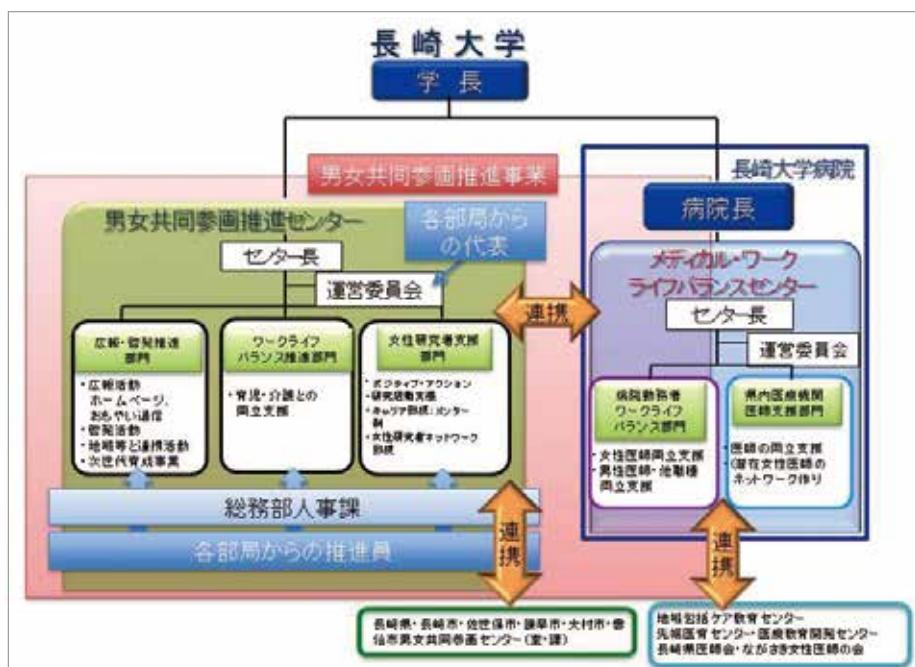
長崎県女性医師等就労支援協議会 委員
長崎県医師会男女共同参画委員会 委員長
長崎大学医師会 理事
長崎県看護キャリア支援センター指定管理者選定委員会 委員
長崎県医療審議会 委員
長崎県公立大学法人評価委員会 委員

ながさき女性活躍推進会議 企画委員
長崎市男女共同参画審議会 会長
長崎市表彰審査委員会 委員

日本学術会議 連携会員
ながさき女性医師の会 前会長

南貴子 副センター長

長崎大学男女共同参画推進センター ワークライフバランス推進部門 委員



病院インセンティブ目標と成果

平成26年度(2月迄)

項目	目標	実績	達成率
【1】就労に関する相談件数を年間20件以上	20	40	200%
【2】イブニングシッター利用延べ託児数25人以上	25	46	184%
【3】意識調査に関するアンケートを施行し、回収率50%以上			
(1)医学生におけるワークライフバランス・キャリア意識調査	50%	90.1%	180.2%
(2)病院管理職における医師のワークライフバランスに関するアンケート	50%	65.2%	130.4%
(3)長崎大学病院女性医師の近隣病児保育施設の利用調査	50%	100.0%	200.0%
(4)病院職員の燃え尽き症候群克服のためのワークライフバランスからのアクションリサーチ2回目	50%	56.7%	113.4%
なお回収方法について、			
(1)は「医と社会」授業の際に机上配布、その場で回収した。			
(2)は県医師会と合同で実施し、各主要病院へ郵送配付、返信封筒を同封して郵便で回収した。			
(3)は個別もしくはワークライフバランス推進員から配付、院内便やメールで回収した。			
(4)は長崎大学病院に勤務する全職員へ個別に配付、返信封筒を同封して院内便で回収した。			

7. 謝 辞

今年度4月に、私が長崎大学男女共同参画推進センター長として異動になったため、長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター長と兼務することになりました。2つのセンターは、目指しているところや施策が似ているようでいて、なかなか一緒に進めないジレンマも感じています。それでも、私の行き届かないところを、南貴子副センター長がしっかり支えてくれましたし、またこれまで通り、センタースタッフの「働きやすい」「働きがいのある」病院づくりへの強い想いに支えられてきました。

今年度は私たちの活動が評価され、長崎大学病院は「長崎市男女イキイキ企業」として表彰されましたし、日本医師会で開催された「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会」で、長崎大学の取り組みを紹介する機会もいただきました。来年度は、もっとスピード感をもって事業を進めていきたいです。

来年度の目標としては、長崎大学男女共同参画推進センターと協力しながら「仕事と介護の両立」の施策や、病児保育開設の準備を進めるとともに、「働き方」改革を起こしたいと思っています。

私どもの活動について、ご意見やご要望がありましたら、いつでもお知らせいただけましたら幸甚に存じます。引き続き、「あじさいプロジェクト」ならびに「メディカル・ワークライフバランスセンター」をよろしくお願い申し上げます。

2015年3月吉日
メディカル・ワークライフバランスセンター
センター長教授 伊東昌子

平成25年の終わりに、伊東センター長からメディカル・ワークライフバランスセンターへ参加するお話をいただきました。私自身は、女性医師の子として育ち、現在まだ自分の3人の子の子育て中で、その経験が誰かのお役に立てればという思いはこれまでもありましたが、循環器内科の仕事に加えて、当センターの仕事までできるのだろうかと、不安がありました。循環器内科では心エコーの仕事をしていますが、検査技師の方の増員や、後輩の女性医師の方に協力を求めて、どうにかやりくりできそうに思えたので、循環器内科前村教授のお許しもいただき、平成26年4月から、メディカル・ワークライフバランスセンターでの仕事を兼務でスタートしました。これまで同様、たくさんの方に支えてもらい、導いてもらいながら1年があつという間に過ぎていきました。

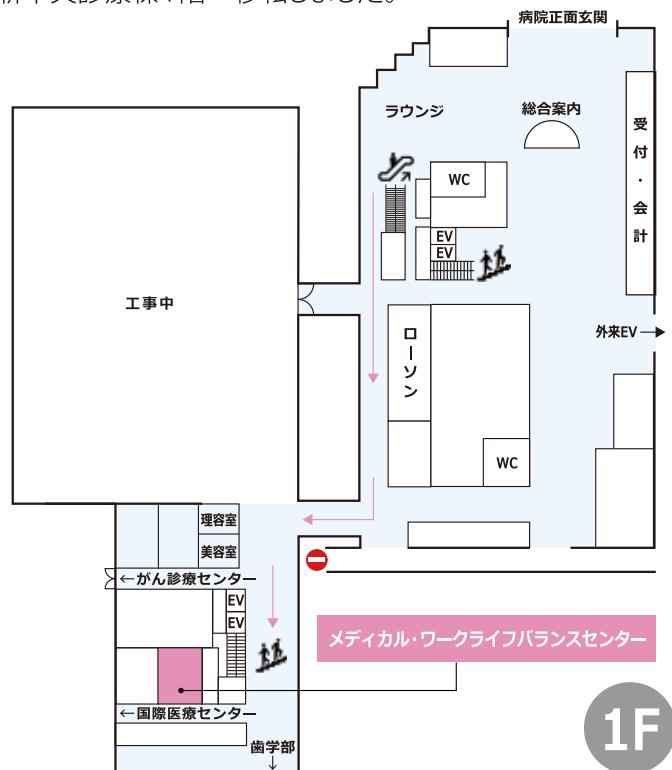
来年度も、誰もが働きやすい職場づくりを目指し、また私自身の経験も活かして、後輩の女性医師・母医師への支援ができればと考えております。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

2015年3月吉日
メディカル・ワークライフバランスセンター
副センター長 南貴子

メディカル・ワークライフバランスセンター移転のお知らせ

平成26年9月1日に、歯学部3階から、
新中央診療棟1階へ移転しました。



平成26年度 あじさいプロジェクト活動報告書 平成27年3月発行

発行 長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号
電話&FAX 095-819-7979
E-mail info01@nagasaki-ajisai.jp
URL <http://nagasaki-ajisai.jp/>

スタッフ

センター長 伊東 昌子
副センター長 南 貴子
センター事務 三宅スコラスタンイン 由香
センター事務 中島 由美子
センター事務 吉岡 和佳子
センター事務 有馬 理音
センター事務 藤本 恵 / 笠戸 靖子
保育サポートシステムコーディネーター 松尾 郁子

編集協力・印刷

株式会社オーエン
〒852-8117 長崎市平野町8-17-103
電話 095-842-0777



